

## 温海地域とは？

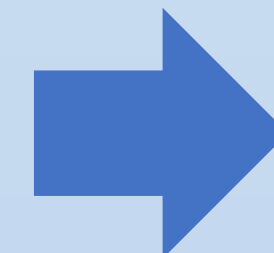
- ☆2005年の鶴岡市合併まで「温海町」であった地域
- ☆人口：6,169人（2024年1月現在）
- 東側が山、西側が海に面した自然豊かな地域
- 海・山両方の自然を楽しめる
- 温海温泉：開湯1200年、県内有数の温泉地
- 美しい温泉街の景観が魅力的



## 活動の背景と目的

### 人口減少&高齢化の進行

↓  
 これまで維持・継承されてきた地域行事・  
 祭典・伝統芸能・文化・農作業・地域の共同作業  
 などの実施および継続が困難に



### 関係人口の創出・拡大

温海地域の人口減少に歯止めをかけることは難しい  
 しかし...

地域外の人（特に20～30代の都市住民）を  
 ターゲットに温海地域の担い手としての活躍を促進

### 地域活動の活性化

- ・地域の活力の維持・発展
- ・若者との交流による住民への刺激

## 現地活動（9月・12月）

第一回現地活動では「地域を知る」をテーマに自治会長や観光関連の事業者へのインタビューや地域住民の方との交流などを行いました。

第一回現地活動を踏まえて提案の方向性も変化し、第二回現地活動では提案の中心に据えることとした「イベント開催」をどのような形態で実施するか（都内or現地）などについて一度お会いした方を再訪して議論を深めたり、そば打ち体験など新たな体験活動も行いました。



## 提案内容：現地訪問型イベントの開催

### 背景

関係人口になってもらうにはまず実際に温海に来てもらい、魅力を知ってもらわないことには始まらないのではないかと？

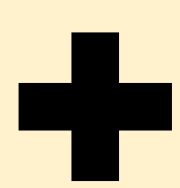
→温海に来て魅力を知ってもらう機会の提供

単なる一過性ではなく、継続して関わりを持ってもらえるような仕組みづくりの必要性

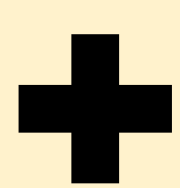
→観光としての魅力だけでなく地域に愛着を持ってもらえるような設計に：アンケート等の実施、地域住民の方との交流

ターゲット層：学生をはじめとする関東圏の若者

### 観光体験



地域住民の方との  
 交流の機会



空き家リノベーション

そば打ち体験、しな織  
 体験、お湯輿祭り、シ  
 ーカヤックなど

来訪者と住民が相互に  
 学び合う空間をつくる

来訪者（関係人口等）  
 が気軽に訪れられる  
 &  
 地域との交流拠点に

## 私たちの学び

○魅力があっても知ってもらわないことにはその魅力も伝わらないため、関わりしろをもたやすためのきっかけが必要。

○初めての経験で自分の世界が広がる実感があった。

○地域とのつながりを作っていくことは両者にとって重要。

○プログラムが終了しても繋がりが続きたい。想いを広げていきたい。

○「百聞は一験に如かず」。



# FS山形県高畠町 活動報告

～学校を中心に活性化する町へ～

眞下和士 川畑明子 鈴木彩乃 山本博健 釜賀健太郎



## 高畠町ってどんなところ？

## 高畠高校ってどんな高校？

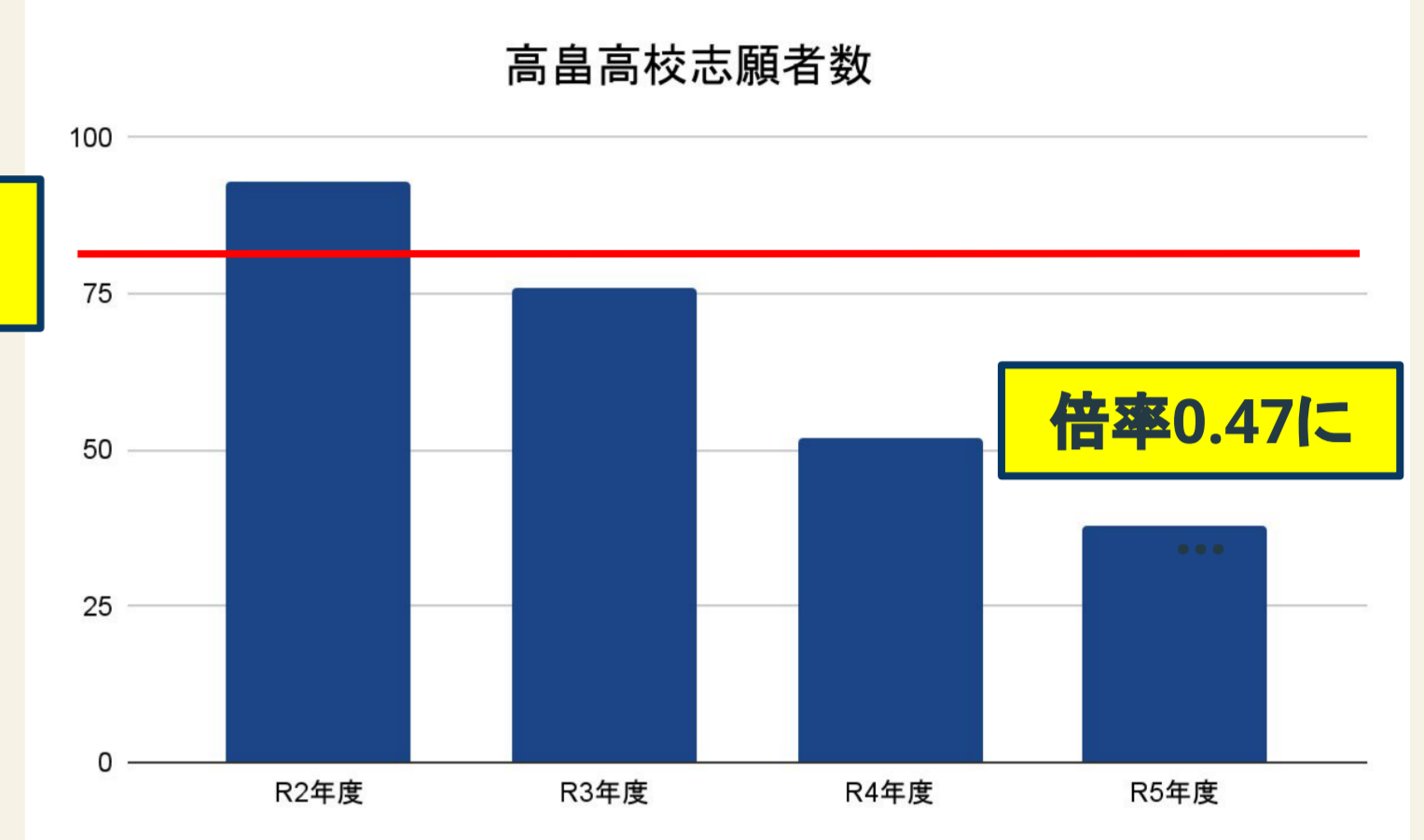


- 人口約23000人
  - 減少傾向
  - 若者の地域外流出
- 果物、食品加工業、有機農業が有名
- 多数の祭り・名所

- 町内唯一の高校
- 総合学科
  - 特色ある学校設定教科/科目多数
- R5年度定員120→80に
- 今年度から3年次総合的な探究の時間内で「高畠ゼミ」発足



定員:80名



## 1年間の活動内容

### 町役場・地域おこし協力隊・先生とのミーティング

授業方針や町、高校の将来についての協議



### 高畠ゼミの授業カリキュラム作成と運営・支援

毎週「高畠ゼミ」の授業を担当。オンラインでゼミ生とともに活動



### 3度の現地活動

- 第1回：高畠町を体感する
- 第2回：はたこうカフェ実施
- 第3回：東京研修説明会実施



## 活動を通じた課題と政策実践の流れ

### ★ 「魅力」とは何か？

- 幅広い選択肢があるからこそ、明確に打ち出せる魅力がない
- 町内唯一の中学校である高畠中学校からの進学率が低い
- 県立高校は県教育委の管轄で、町役場の介入余地が少ない
- 周囲の私立高校の台頭

### ★ 高畠ゼミを高校の魅力の柱に

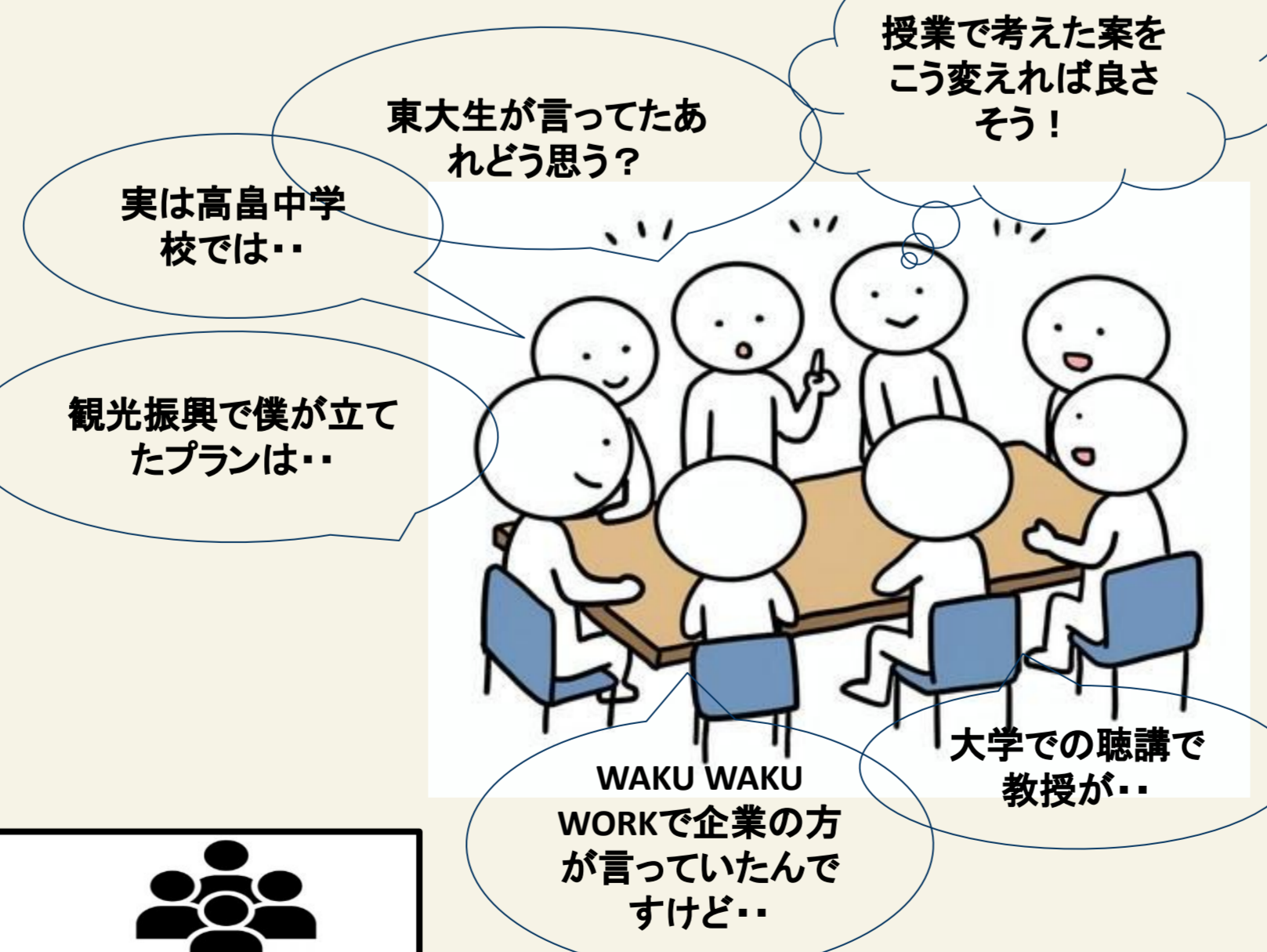
- 授業での3つの試み
  - ① 「魅力」に関する議論
  - ② 発表準備
  - ③ 「はたこうカフェ」企画
- ①→抽象的議論の難しさ
  - 議論の引き出し不足
- ②→大学生が「教える」限界
- ③魅力発信/交流の未達成

### ★ 魅力発信をテーマとした吸収と実践の場づくり

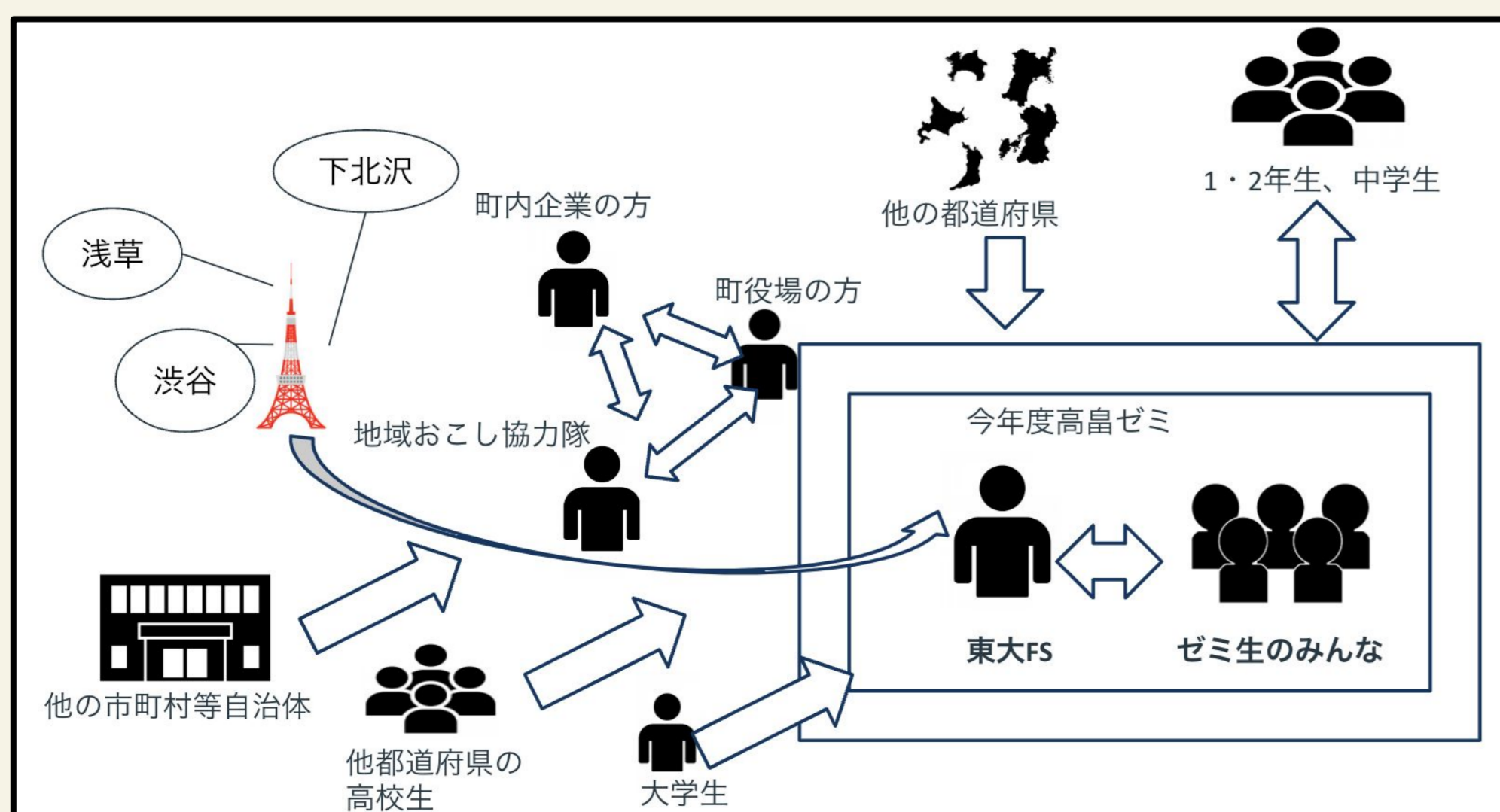
### ★ あらゆる人/ものと接点をもてるフィールド構築

- 東京研修実施 (2/23~2/24)
  - ①~③での課題解決の出発点として
  - 町外に魅力発信したい高校生/役場の方の思い
    - →町PRを兼ねた成果発表+交流会
    - →街歩き (魅力化のヒントを探る)
    - →インタビュー (商品販売戦略調査)
  - 第2回現地活動中 (10月末) 構想 11月~町・学校と議論し企画
  - 第3回現地活動 (2月) でワークショップ実施

## 今後の展望



- **アウトプット (実践) と振り返りのサイクル**
  - 魅力発信に止まらないゼミ活動へ
- **インプット (引き出し) を増やす**
  - 知識と発想の吸収
    - 他科目の仲間たち、他学年、中学生から
    - 地域のために活動している方々から
  - 自分たちの手で魅力を「再」発見
    - 町外/町内へ飛び出す
  - 探究/企画実施の理論的基礎の習得



- 東大FSを媒介とした、**魅力化ネットワーク**構築
  - →町の子どもの活動領域・発想的空間の拡大
- 活動の影響がより多くの人や地域へ浸透するように
  - 入学者 (高畠高校で学びたい！と思う子ども) の拡大
  - 町外へ、県外へ、そして海外へ！



# 福島県双葉町

～空き地活用とデジタルマップを通じた町内外の繋がり創出～

滝川誠人 田代智哉 富田美穂 西山奈那

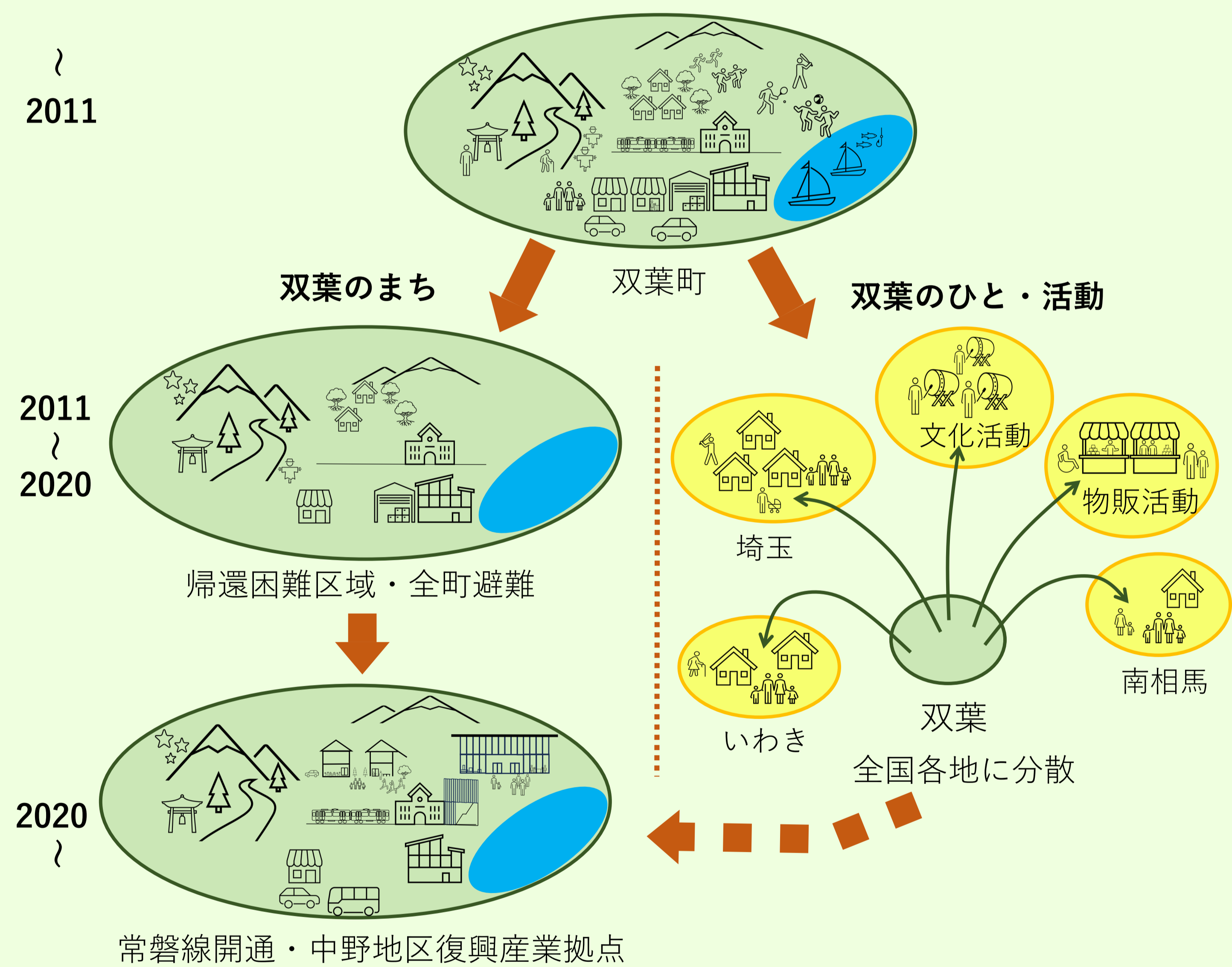
## 1. 双葉町の今

- ・面積：約50km<sup>2</sup>（帰還困難区域：約85%）
- ・人口：6939人（2011年3月末）→ 5420人（2024年1月末）  
町内で暮らす人：86人（2023年8月末時点）
- ・アクセス：常磐線特急で東京から3時間、仙台から1時間半
- ・出来事：2022年、面的に避難指示解除、町内で役場再開
- ・今後：2025年度、スーパーやカンファレンスホテルが開業予定



## 2. 双葉町の課題

- ・課題：「まち」と「ひと」の分離
- ・活動テーマ：空き地を舞台に、小さくても将来の関係人口づくりに繋がる「面白い」「可能性がある」と思える活動の検討



## 3. 現地活動

- ・第1回(2023/8/28~30)：双葉町内外視察  
インタビュー：ダルマ市主催者、移住者など
- ・第2回(2024/1/6~7)：ダルマ市視察  
インタビュー：新成人、加須の自治会長、ダルマ市来訪者



## 4. 提案の概要 ～空き地の活用～

### 1. 双葉町民の居場所

対象：町内外に暮らす町民  
震災時に幼かった町民  
目的：交流の場の提供



### 2. 学生などが双葉を感じる場所

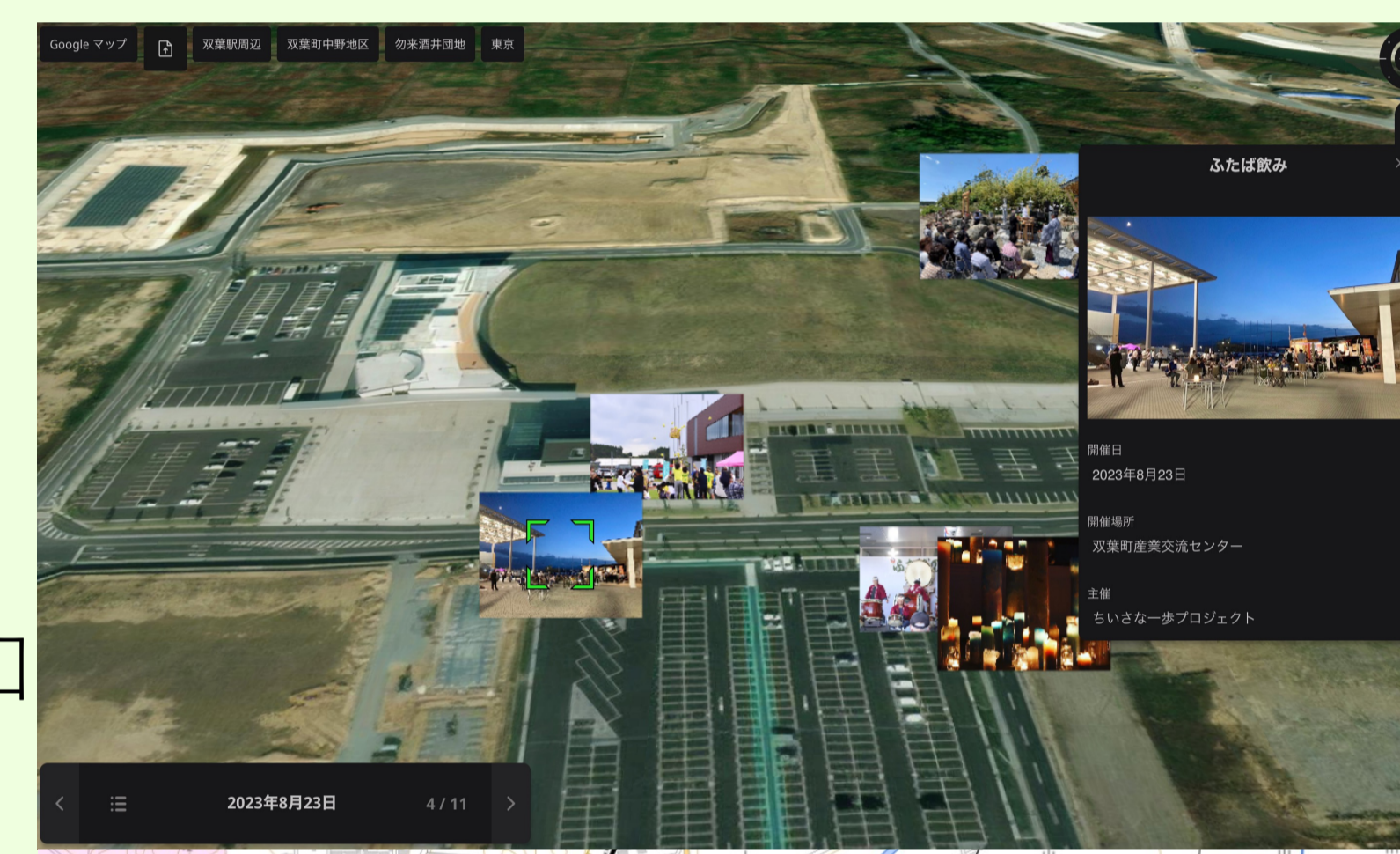
対象：学生など双葉町で活動する人  
震災以後の訪問者・観光客  
目的：双葉らしさの体感  
双葉町に来た意義の体感



## 5. 提案の概要 ～デジタルマップ～

### 1. 震災後のひとの活動を記録

対象：町外に暮らす町民  
双葉町で活動する人  
目的：関係人口の見える化  
町外にまちでの活動を周知  
活動の知見を引き継ぎ



### 2. 震災前後のまちの変化を記録

対象：震災時に幼かった町民  
震災以後の訪問者  
目的：双葉のまちの場所性を伝承  
活動のヒントに



## 6. 提案を通じた町内外のつながり

### 町外で暮らす町民

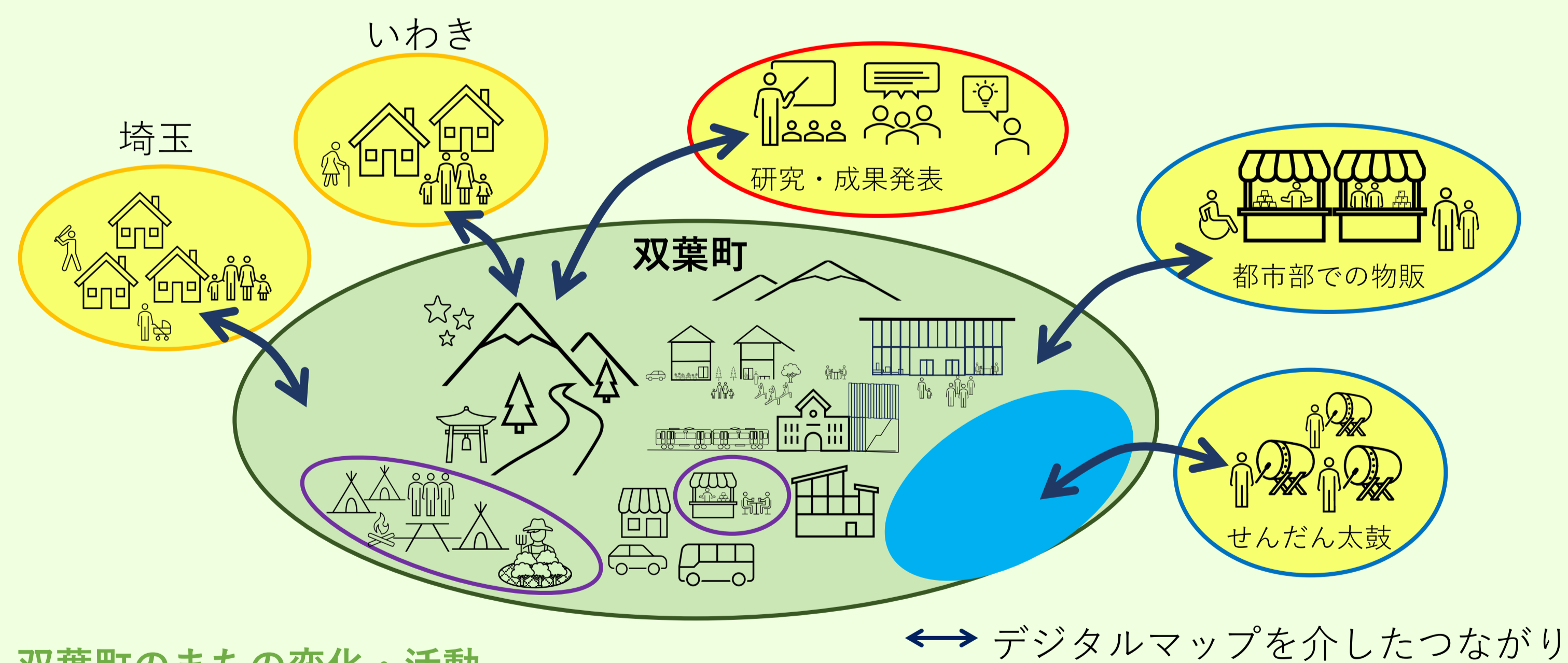
・デジタルマップで  
双葉のまちの変化や  
双葉での活動を認識

### 学生

・双葉に関する研究成果の周知  
・所属や時期の壁を超え、他学生に  
イベントや研究の知見を伝承

### 町外でのイベント

・双葉の魅力を伝える  
イベントの様子を  
デジタルマップで発信



### 双葉町のまちの変化・活動

・デジタルマップで変化前後のまちの様子を記録  
・双葉で暮らす・活動する人々がデジタルマップでその様子を発信

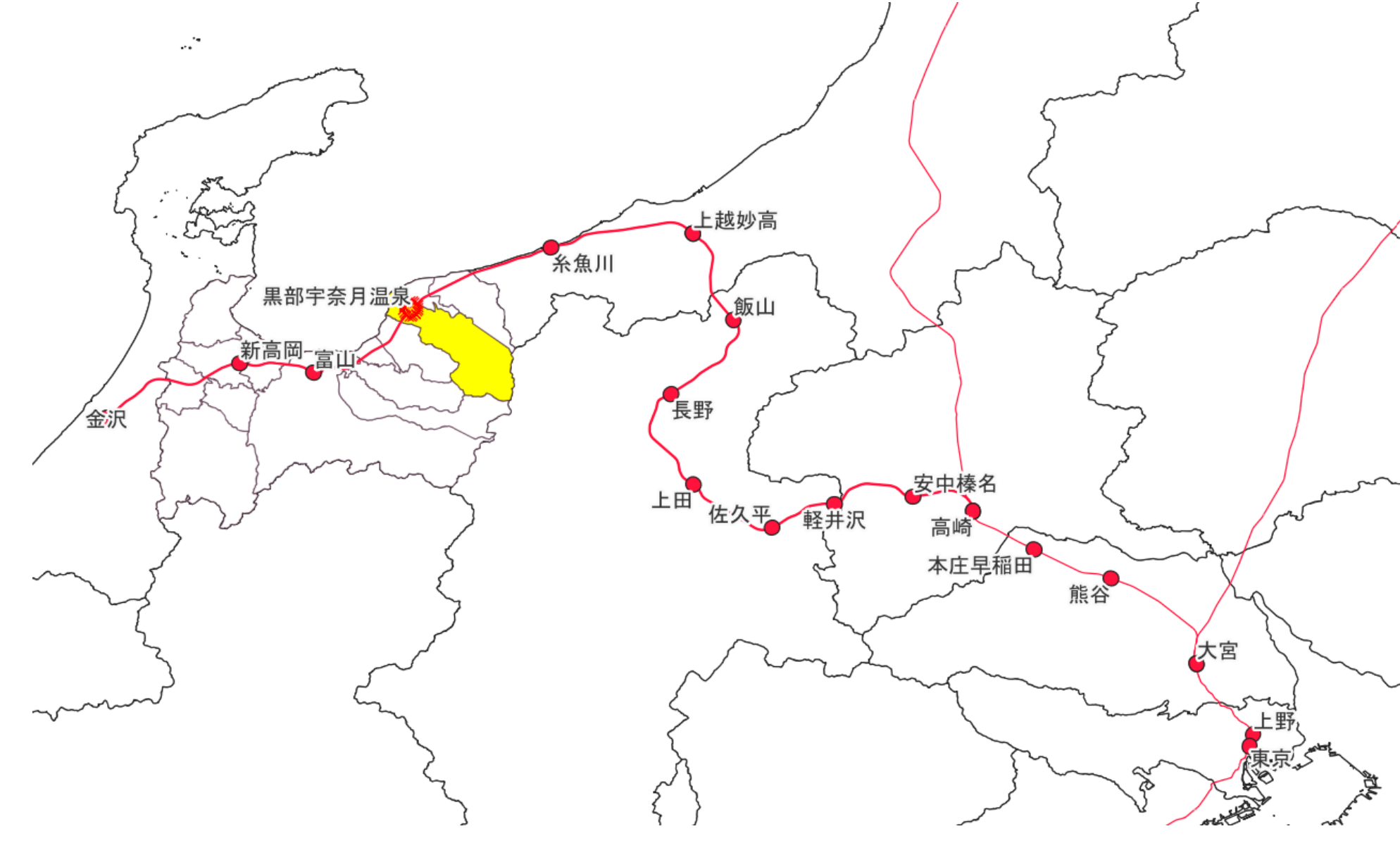
### 空き地の活用

・市街地：恒久施設と連携、町民が帰って来られる場所へ  
・農地・山地：町外の人が双葉の変わらぬ自然を体感する場へ

## 7. 活動で学んだこと

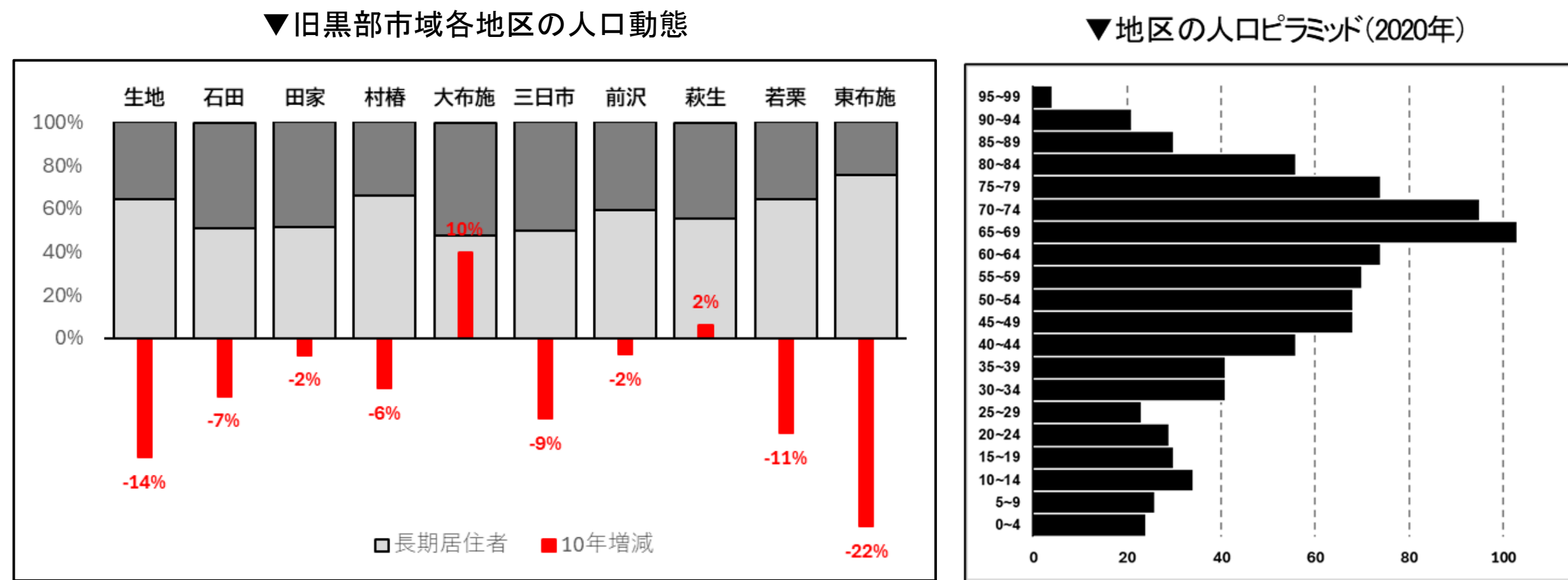
- ・双葉町で活動する学生や企業が多い中で、新たな提案をする難しさ  
知識や経験が共有が新たな活動にもつながるのではないかと
- ・街を実際に複数回訪れることの重要性  
2回の現地活動で震災前後の変化・普通の町の賑わいの両者を体感

# 東大FS 2023年度学内報告会 富山県黒部市東布施地区



## 地区の現状

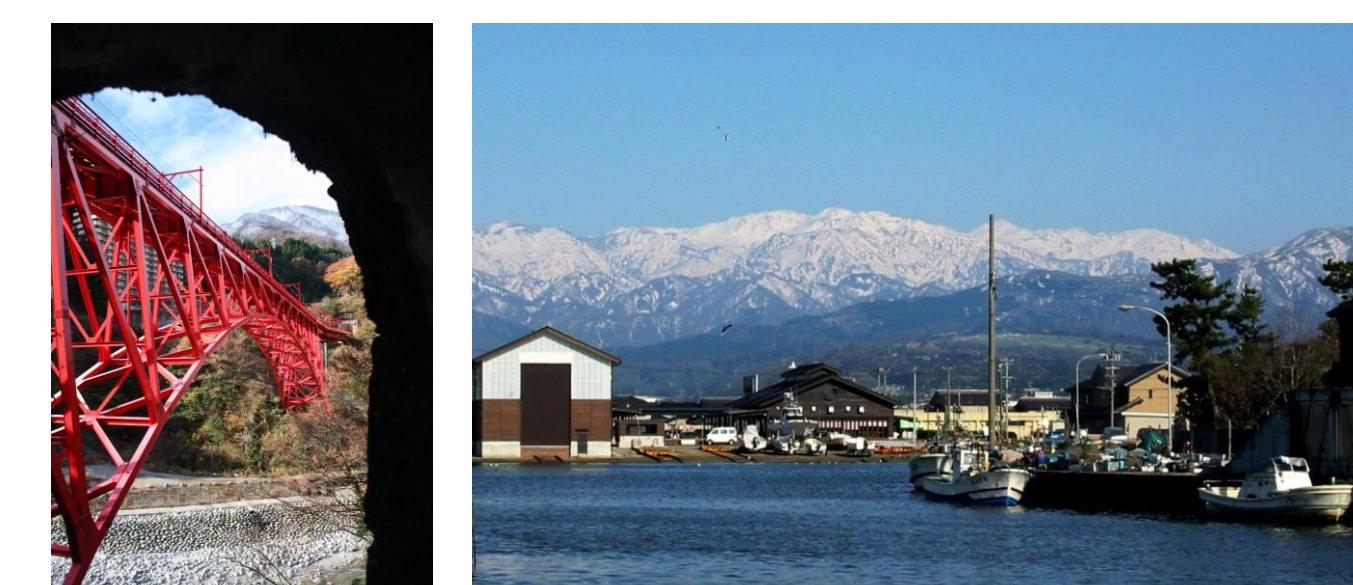
- 布施川扇状地(布施谷)に形成された集落
- 地域課題; 人口減少と少子高齢化
  - ・ 小学校は閉校、保育園も今春閉園を予定
  - ・ 人口**966人**(2023年12月末現在;市HPより 10年前は1,235人)
  - ・ 高齢化率**39.6%**(2020年国勢調査による)
- 現在、地域活性化に向けた活動を加速
  - ・ 2021年、「みらい会議」で**アクションプラン**を策定



- ① 地域住民が楽しく暮らせる交流の場やイベントを考える <住民交流>
- ② 子どもの声が聞こえる暮らしやすい地域を創る <子育て・住みやすさ>
- ③ 豊かな自然を活用した体験、人を呼び込める観光・特産品を考える <自然体験・観光資源・特産品>
- ④ 住民を増やしたい! 人口増加、移住定住を考える <移住・定住促進>
- ⑤ 東布施の自慢できる場所・コト・人を探す <地域PR・情報発信>

## 黒部市について

- 人口**39,647人**(2024年1月末現在;市HPより)
- 東京駅から新幹線で**2時間半弱**
- 金属メーカー **YKK** の本社が立地
- 山から名水まで、**観光資源**も豊富



## 今回の目的

# “アクションプランの再構築”

## 現地活動の経過

- 第1回;8月14日-16日
  - ・ まず地域と人を知る
  - ・ 地域資源 - 獅子舞見学/山菜料理の試食
  - ・ 地域課題 - 座談会で幅広い年代層と接触
    - ➔ 人手不足が根本(山菜の収穫/竹「害」)
- 第2回;11月4日-5日
  - ・ 地域課題解決の糸口をさぐる
  - ・ ピンチをチャンスに…竹と山菜に注目
    - ➔ 東布施フェス;竹工・山菜料理の体験
  - ・ 地域内からは気付けない魅力を再認識
- 第3回;3月8日-10日
  - ・ きっかけをつくる
  - ・ 提言をまとめ、**現地報告会**で共有・議論
  - ・ 「**東布施めぐり**」で外部住民との「関係」へ
    - ➔ 地域の魅力をパッケージ化して紹介



▲「田代」から見える美しい棚田 (第1回1日目:地区視察)  
振興会の方々のご案内で、地域内を周遊。住民は「当たり前風景」と謙遜するが、東京から来た学生には素晴らしい地域資源に思えた。一方、中山間地域であり、背後の「福平」にある開拓集落など、農耕の維持を放棄した場所も。

事前のオンラインでの話し合いで、地域の課題として挙げられていた竹。一見ピンとこない「竹害」という問題を出発点に、地域の後継者不足や、それを逆手にとって観光資源にする戦略など、色々なことを知ることができた。第2回活動の「東布施フェス」では、その経験を活かし、地域の方々のご協力のもとで竹工体験を実施。竹目当ての子供連れが富山市内から来訪するなどした。

▼竹の伐採を見学・体験 (第1回1日目:地区視察➡➡第2回)



▲流しそうめんを通じた交流 (第1回2日目:山菜料理交流会)  
地域の方々のご発案で、帰省中の子供たちを交えた交流会を実施。人口減少のなかで、これからの地域の力を握る次世代。その本音を知ることができた。なお、このときの様子は地元メディアで報道されたよう。



◀地域の伝統的な食文化を体験 (第2回1日目:「東布施フェス」)  
第1回活動時に、地域の方々から名産の山菜料理をふるまっていた。美味しいのに、若手に継承できていない、という問題意識から、第2回「東布施フェス」では、地域内外に向けた山菜料理づくりの体験会を開催した。学生考案の創作料理(山菜パスタや肉じゃがなど)とあわせ、おむね好評を博したほか、来訪した子どもたちにも食べてもらった。今後伝統的な食文化が根付き、山菜採りが持続するよう期待したい。



◀廃校から眺める「尾山」「朴谷」 (第2回2日目:地区視察・座談会)  
これまでの「みらい会議」でも話題になってきた廃校の活用方法について考えるため、特別に校舎を見て回ること。配管や電気系統など、設備の老朽化は著しいものの、地域唯一の中層建造物であり、山から海まで見渡せる眺望など、観光に活かせる要素も垣間見えた。東京で文科省の廃校活用イベントなどにも参加して可能性を探ったが、やはり地元の方々の仰るように、簡単に解決するものではないと実感。



▲東布施めぐり(第3回2日目-3日目)  
昨年の宮崎県諸塚村の実践例を参考に、地域資源のパッケージ化を図ったもの。無事満員御礼に。(活動前に資料を作成したため、当日の様子は発表時に口頭で補足します。)

## 学生からの提案

- 提案の方向性
  - a. 事業案のブレスト…たくさんアイデアを出す
  - b. 事業案の具体化…一部の計画をブラッシュアップ
    - ➔ まずa.を、次に地域の人と話し合ってb.を (※切前倒しのため、b.が未了。詳細は右下QRコードより当日までに更新)
- 再構築にあたってのチェックポイント
  - ・ アクションプランの構造



1. 「**事業として成り立つか?**」;夢を見過ぎてても成り立たない
2. 「**事業と夢はつながるか?**」;事業のための事業ではないか
3. 「**夢について合意はあるか?**」;誰がための、何のための事業か

- 提案内容の素描(左記のb.)
  - ◆ ①②→まず交流の場をつくること
    - ・ 課題;地域活動に参加する住民が少ないこと(左記2.)
    - ・ 提案;「いつも誰かがいる」安心感
      - ➔ 公民館を用いた「カフェ」、子どもの遊び場の提供などを具体的に提案予定
  - ◆ ③④→イベントの積極化、ツアー化
    - ・ 課題;住民が「観光」にハードルを感じている(左記1.) e.g.みらい会議であがった「そばレストラン」→現実性に乏しい
    - ・ 提案;パッケージングなど、今後も継続できる工夫
      - ➔ 第3回の「東布施めぐり」を例に、実施主体や内容などを報告会で話し合う
  - ◆ ⑤→話し合いの場を設けること
    - ・ 課題;地域住民が話し合う機会が乏しい(左記3.)
    - ・ 提案;堅苦しい「会議」ではない形を模索
      - e.g.第3回の「マップづくり」を機に+まちづくり協議会(RMO)の活用も併記
- その他のアイデア(左記のa.を一部抜粋)
  - ・ 小学校との交流(郷土史教育、地産地消の給食提供など)、耕作放棄地を彩る、廃校のホテル化、写真コンテストの実施、「東布施年間パス」の作成



▲現地報告会での「マップづくり」(第3回1日目)  
昨年までの石川県能登町の実践例を参考に、地域資源を地図におこし、キャッチフレーズを付けて魅力を伝えやすくすることを企画。我々としては、報告会の中で、地域住民の方々にキャッチフレーズや紹介文を考えてもらう形をとり、改めて地域の魅力に注目していただくとともに、今後の展望についても話してもらい「きっかけ」とすることを考えている。上記画像はそのために作成したたたき台で、地域の方々の知恵をもとに、完成させたものは別途お見せする予定。

詳細はこちら(本日の発表資料)



# 「続・無人駅プロジェクト」



～ 能美市をもっとしたいことが叶う街にするアクションプラン 2023 ～

藤田 光 (工 3年), 丸山 凜花 (文三 1年), 真野 竜汰 (理一 1年), 片山 明優香 (文二 2年)

## 活動概要

### 能美市とは

- 石川県加賀地方
- 人口5万人
- 海から山まで東西に幅広い自然を持つ
- 3月 北陸新幹線小松駅開業, アクセス向上



キャッチコピー (HPより)  
のしみし  
したいこと、能美市だったら叶うかも

### 背景と目的

のみなあがり  
市唯一の駅「能美根上駅」が  
2022年9月に**無人化**  
→駅, 駅前の賑い減少, 空洞化

活性化策を地域住民と共創

↓  
「地方での無人駅を活用した  
持続可能なまちづくりモデル」  
として全国に発信したい

### 活動

- 1Q 前任者引継ぎ等 [知る]
  - 前任者とZOOMミーティング
  - 地元大学生とZOOM交流
- 2Q 現地調査 [見る]
  - 8/29～31 能美市現地調査
  - 観光農場・交流協会等
- 3Q 住民の声を拾う [聞く]
  - 駅利用者へ聞き取り (依頼)
- 4Q 最終報告会 [伝える]

### 目指す姿・テーマ

駅を中心とした「場」に着目



駅を拠点に市民&外の人の  
したいことが叶う場を提供!  
↓  
関係人口創出 + 地域活性化!

## 提案① 「まちじゅう図書館 駅前分室」

市内各所・のみバス車内にミニ本棚を設け、本を介した市民の交流を増やす その第一歩として駅前に設置

### ターゲット

- 市民
- 駅利用者
- 観光客

### 叶うこと

- 本の返却が便利に
- 待ち時間を楽しく
- 本を介した人との交流
- 本で能美市を知る

### 時期・主体

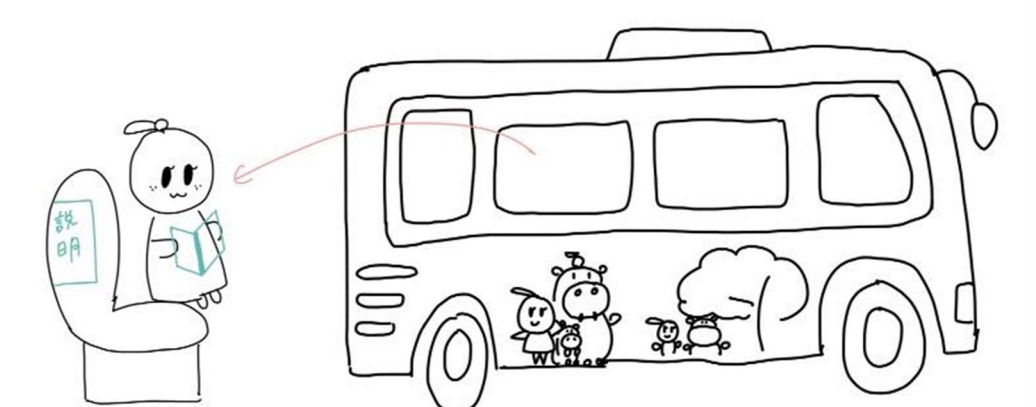
- 短期～長期
- 市・図書館

短期的に一駅構内に本棚を設置

- 図書館本の返却ボックスを設置
- 推薦図書
  - 観光客向けに能美市を紹介する本
  - 交流協会の外国人の方の出身国に関する本→交流の機会に

長期的に一まちじゅう図書館

- 市内の各所、のみバス車内にミニ本棚を設け、本を介した市民の交流を増やす



## 提案② 「おてつだい×旅」

市内の様々な事業者により市外の人が入り、観光のかたわらで「おてつだい」(=労働)する

### ターゲット

- 市外に住む  
大学生、社会人
- 市内の事業者

### 叶うこと

- 日常にない体験
- 旅をしながら稼げる
- 人手不足解消
- 関係人口創出

### 時期・主体

- 中期
- 市内の各事業者
- 市
- マッチング事業者

市内の事業者

- 動物園など、先行事例にとらわれない受け入れ先を用意
- 駅を受け入れの拠点として利用者の利便性向上&駅の活性化

◆地元の「あたりまえ」が外の人の「貴重な体験」(=価値の創出・再発見)

行政

- 事業者に対して、仲介手数料などによる比較的高額な負担を減らす支援金制度を創設する

## 提案③ 「駅での多様なイベント開催」

駅構内や駅員室のスペースを常設/非常設のイベントスペースとして活用し、駅の目的地化を目指す

### ターゲット

- 幅広い市民
- 全国の家族連れ

### 叶うこと

- 国際交流を体験
- 待ち時間の有効利用
- 家族で思い出作り
- 関係人口創出

### 時期・主体

- 中期
- 駅利用促進協議会
- 国際交流協会
- 鉄道事業者 等

駅員室にイベントスペース設置 (常設)

- 「物々交換の本棚」イベント (提案①とも関連)
- 本を題名が見えないようラッピング  
→コメント添付→別の本を持ち帰り
- 室内に少し座って本を読める席を設置

駅周辺拠点にイベント開催 (非常設)

- 国際交流協会主催のイベント
- IRいしかわ鉄道のイベント
- 運転体験をふるさと納税に  
→鉄道好きのファミリー層にリーチ

## 感想/学んだこと

求められているものが何かということを探ってきた1年だったと思う。多種多様な立場の人たちとコミュニケーションをとる中で、**様々な感覚を養い実践できた**のは非常に貴重な機会だった。 藤田 (3年)

住民の方々が必要としているものは何か、そして実行可能な範囲で何ができるのかという**答えのない課題に対するアプローチの難しさ**を1年を通して実感した。また、もう少し具体的なシステムまで提案できればよかったと思う。 真野 (1年)

ただの地域活性化だけでなく「能美市にしかできないこと」を考える必要があり、**現地調査の大切さ**を実感しました。この場を設けてくださった能美市の皆様に改めて感謝します。 丸山 (1年)



# 能登の里山里海を紡ぐ関係人口創出

志賀智寛・宮下祐真・多形恵美・佐々木諒太



## 能登町とは？



- 石川県・能登半島に位置する人口約1.5万人の町
- イカ・定置網などの漁業や田の神様に感謝する「あえのこと」の風習など、豊かな里山里海が残るのどかな街
- 日本遺産のキリコ祭りなど、伝統的なお祭りが盛ん
- 羽田空港からのと里山空港まで60分（1日2往復\*）、空港から中心地（宇出津）まで車で25分のアクセス



\*2024年3月1日現在は震災の影響で週3便の運行

## ミッション

「のとをしる」から「のとにであう」へ

- 若者の流出による負の連鎖が続くという課題を抱える
- 数字的には無理ゲーだが、それをワクワクに変えたいという思いで、今年で7年目の活動
- 5期・6期の活動で、動詞から入る観光促進ツール【NOTO\_CHOICE】を作成
- 今年は東京の人が「のとにであう」イベントを開催することをメインミッションに活動

### NOTO\_CHOICEとは

- 全20種類の観光促進カード
- 体験したい動詞を選び、裏面の観光地を訪問する



### チームとしての目標

イベントやNOTO\_CHOICEを通じて能登町の関係人口を増やし、能登の暮らしを受け継いでいきたい



## 現地活動

### あばれ祭り (7/7-9)



公式の現地活動とは別にプライベートで能登町を訪問しました。過去の能登町 FS 参加者も集まって交流を行ったり、この時期に行われる能登町最大のお祭「あばれ祭り」に参加したりしました。能登町が誇る「里山」「里海」「祭り」の魅力を短期間で一気に体験することで、能登町に対するモチベーションを高める良い機会となりました。



### 現地活動① (8/31-9/2)

第一回の現地活動を行いました。「NOTO\_CHOICE」で紹介されているスポットを巡るとともに、能登町内の店や施設を訪れ、能登町に住んでいる方々の温かさ、志の強さを感じることができました。この現地活動をもとに、その後の会議では11月のイベントで何を伝えるかを考えていきました。



### 現地活動② (10/27-29)

第二回の現地活動を行いました。イベントで何をやるかが定まってきたところで、イベントに必要なもの(写真や特産品等)を発掘していく機会となりました。また、現地の方々との交流も深まり、自分たちが能登町側になってイベントを企画していく気持ちが強くなった活動でした。



## イベント「NOTO\_CHOOSER」

### 概要

- 2023/11/18 (土) 11:00-16:00 @フロンティアコンサルティング(株)
- 東京在住の方に能登町をPRするイベント
- 能登町、能登町定住促進協議会と共同主催
- 過去のFS能登町生7名がスタッフとして協力
- 来場者：100人超



### 当日の様子

コンテンツ名	内容
のとをまなぶ	能登町の魅力についてプレゼン形式で簡単に説明する
のとをかんじる	能登町の PR 動画を流す
のとをのぞく	能登町の風景を撮った写真を展示する
のとをさがす	能登町の観光地を記した地図を展示する
のとをあじわう	能登町の特産品を試食・試飲してもらう
のたとつながる	能登町に住んでいる人と中継を繋ぐ
のたとあそぶ	能登町で生まれたゲーム「こいた」を体験してもらう
のたとふりかえる	「あなたに合った能登」を書いてもらう



「のとをまなぶ」



「のたとつながる」

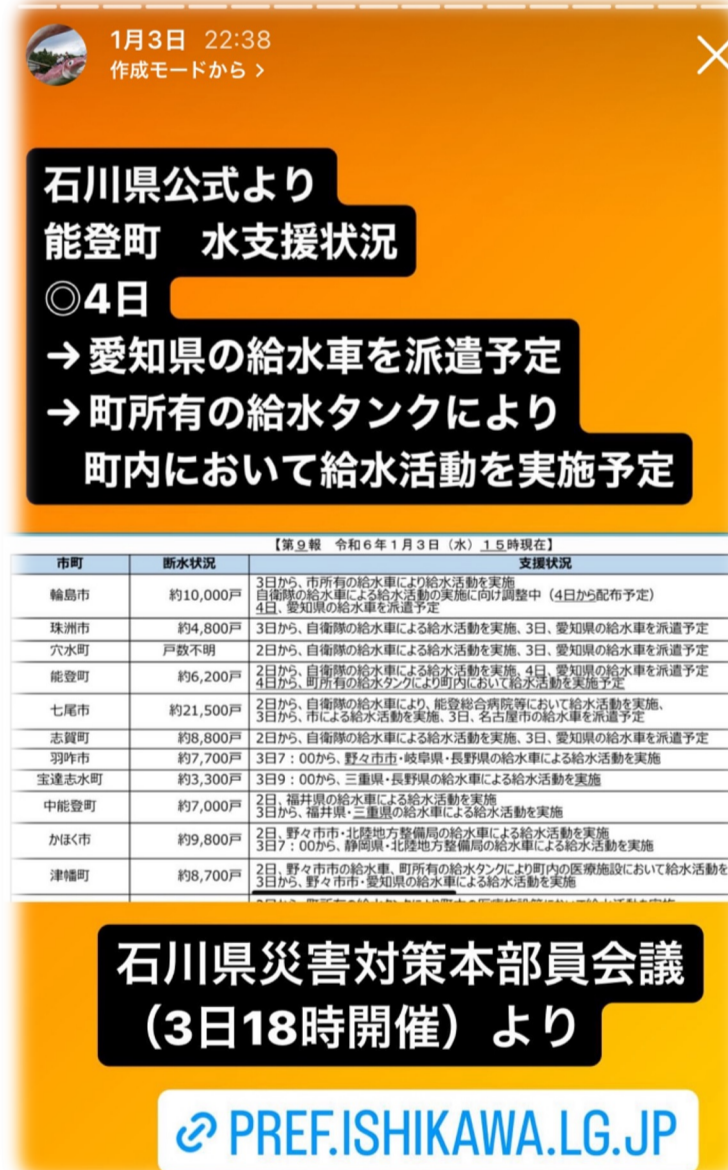
「のとをのぞく」

「のとをあじわう」

「のたとあそぶ」

## 2024/01/01 能登半島地震の発生

## 支援チームの活動



### 概要

- 7年間で28名が能登町で活動、そのOBOG含めた有志で結成
- 能登町にいただいたものを恩返ししていく
- 様々な支援活動を通して、これまでの関係性を未来に繋げる

### 活動内容

- 義援金の呼びかけ・ポスターの掲示・学内広報
- ストーリーズで避難者の方に向けた情報発信
- 地域連携シンポジウムでの発表 (2/5)
- 現地活動の3回目を実施 (2/24-27)、現地の「いま」を視察

### 今後の活動

能登町・大学と連携して、さらに活動を進めていきます

#### 基金設立

東大基金の仕組みを利用して、支援をしていきます。寄付金は今後のボランティア活動の費用等に充てさせていただきます。

#### 体験活動プログラム

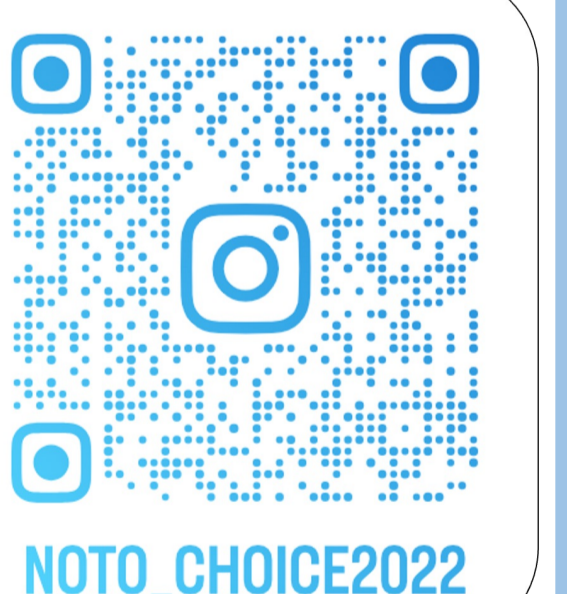
復興のために力になりたいという学生を巻き込む準備を進めています。

#### 中高生支援

東大生の強みを活かす支援として、中高生への支援について現地の方と協議をしています。

#### 復興支援イベント

町の支援となるようなイベント@東京や、FS8期で予定されていた「NOTO\_CHOOSER」第二弾などを企画します。



能登町HP義援金ページ

## 活動を通して学んだこと・感じたこと

### イベント

- 学生がイベントを企画する影響力と難しさ
- 効果検証が不十分。何が伝えられたのか？
- 参加者と現地との関わりしりが限定的？
- 関係人口をどのように作っていくか
- ターゲットの絞り込み、訪問障壁の把握が必要
- 来年度にも繋がる引き継ぎ

### 支援チーム

- お世話になったからこそ、東京で自分たちができることの実践：後方支援
- 風化させないためにできること：能登町の関係人口を増やし、現地に訪問してもらう
- 能登の【創造的復興】に向けての合意形成の重要性
- 今後の防災・発災後の対応にどのように活かしていくか

### 能登町と出会って

ふるさとを感じる里山！豊かな里海！  
熱い祭り！優しさ溢れる町の方々！  
そして、町の大切な人やOBOGとの繋がり。  
また行きます！ありがとうございました！



# 探究まなび場「つるラボ」において実施する地域資源を活用した特色ある教育に向けた「探究プログラム」の検討 @山梨県都留市

朱怡樺、長内柊斗、竹内彩乃、田邊莉那



## 都留市の課題

- ①子どもたちの学び・地域への関心が低い
- ②大学生や市内若年層など若者の就職先が少ない

⇒解決策のひとつとして探究まなび場「つるラボ」の運営を開始

## 私たちの活動内容

## 「学びと遊びの融合」

### ①探究プログラムの実施

- ・つるラボが重視する三つの力「知的な好奇心・合意形成力・表現力」を子どもたちが発揮できるようなプログラムを検討

### ②効果検証

- ・探究プログラムの効果を検証する方法を検討

# 1 きみの「好き」を漢字にしよう

探究プログラム①

オンライン実施

2023/12/8(金)・12/10(日)開催

## 学びの中の遊び！

### アンケート分析

- ・子どもからの満足度は高かった
- ・「有料・定期的」な探究型学習への障壁

### 開催目的

子どもたちの興味を知る、探究型学習の認知度をあげる、知的な好奇心・表現力を発達させる

### プログラムの流れ

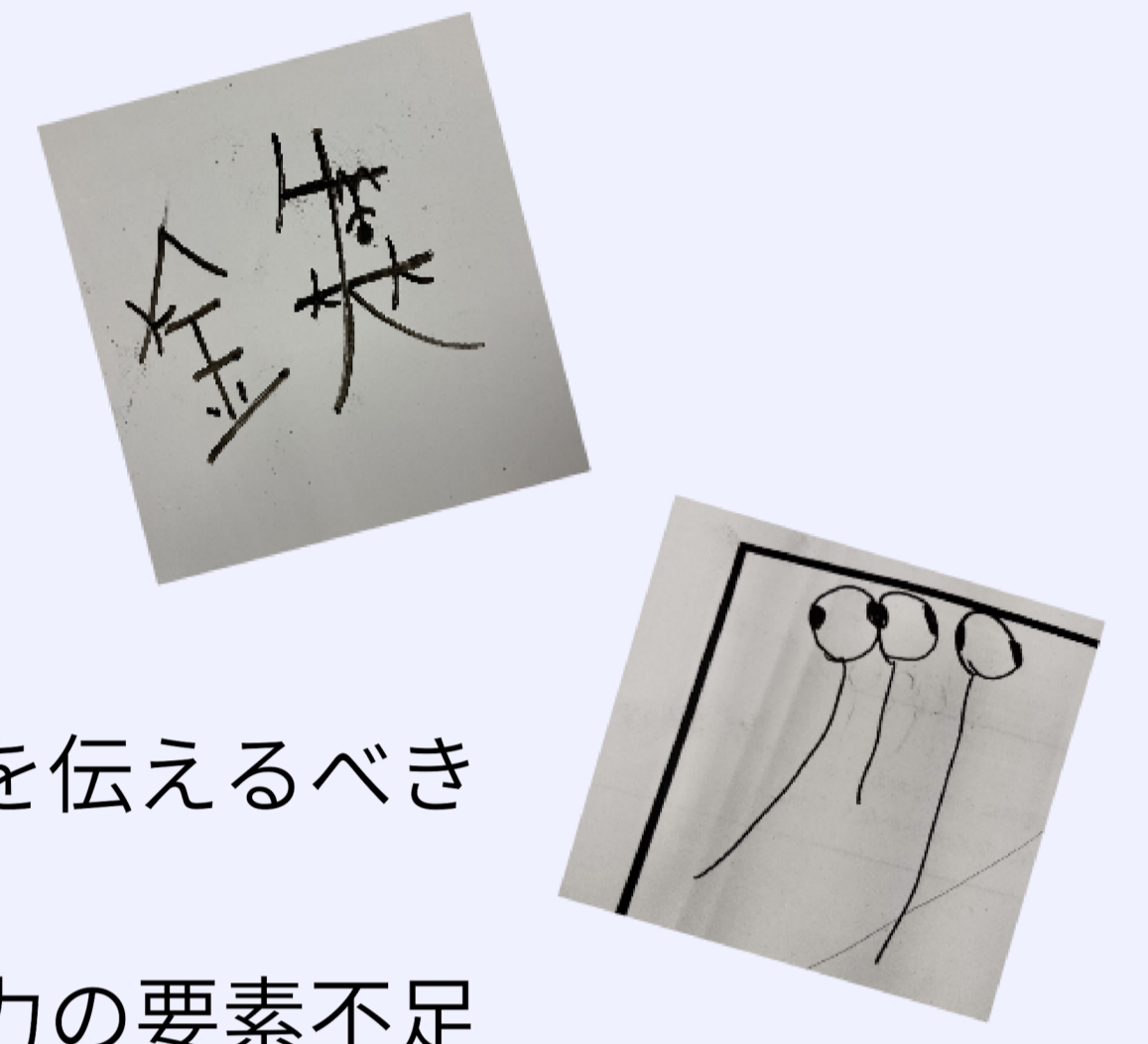
探究型学習の説明→漢字作り→漢字クイズ→対話の会→アンケート

### 高評価点

- ・子どもたちが楽しんで学んでいた
- ・探究型学習の認知度向上
- ・子どもたちと会話できた
- ・小学生の動きに合わせて柔軟な対応

### 反省点

- ・保護者の取り込みが不十分
- ⇒事前に一参加者であることを伝えるべき
- ・事前準備不足
- ・三つの力のうち、合意形成力の要素不足



## 開催目的

合意形成力・知的な好奇心・表現力を発達させる

## プログラムの流れ

寸劇→楽器作り→発表準備→発表→楽器の解説

## アンケート分析

- ・探究型学習の認知度を上げる重要性
- ・金銭的・時間的制約の障壁

## 高評価点

- ・子どもたちとの交流
- ・三つの力全部
- ・効果検証の実践
- ・寸劇の導入

## 反省点

- ・音楽に関する知識を想定できていなかった
- ・誘導の基準を統一していなかった
- ・道具の使いにくさ

# 2 失われた「音」をとりもどせ

探究プログラム②

現地実施

2024/2/25(日)開催

## 遊びの中の学び！



## 効果検証

### ルーブリックとポートフォリオの融合を実践

step1 抽象的基準の作成

step2 具体的な行動の想定

step3 実際の様子を観察

step4 観察した行動を整理

step5 数値的な分析

⇒ルーブリック

step6 様子をフィードバック

⇒ポートフォリオ

### \*実践してみた課題

- ・子どもの様子の変化
- ・難易度の個人差
- ・環境による難易度の変化
- ・到達度の判断に個人差
- ・三つの力の境界

### ルーブリック

基準が明確  
実践時の負担の軽さ

画一的評価

### ポートフォリオ

個人に沿った内容

基準統一の困難性  
負担の重さ

## 今後への提案

### (1) 内容

- ・「外部にいる」ことを生かして「学びと遊びの融合」というテーマ

### (2) 探究型学習の認知度向上

- ・単発イベントの継続&イベント数の増加
- 方法：オンラインの併用、マニュアル作成、豊富なジャンル
- ・探究型学習についてチラシの作成、SNS等の活用

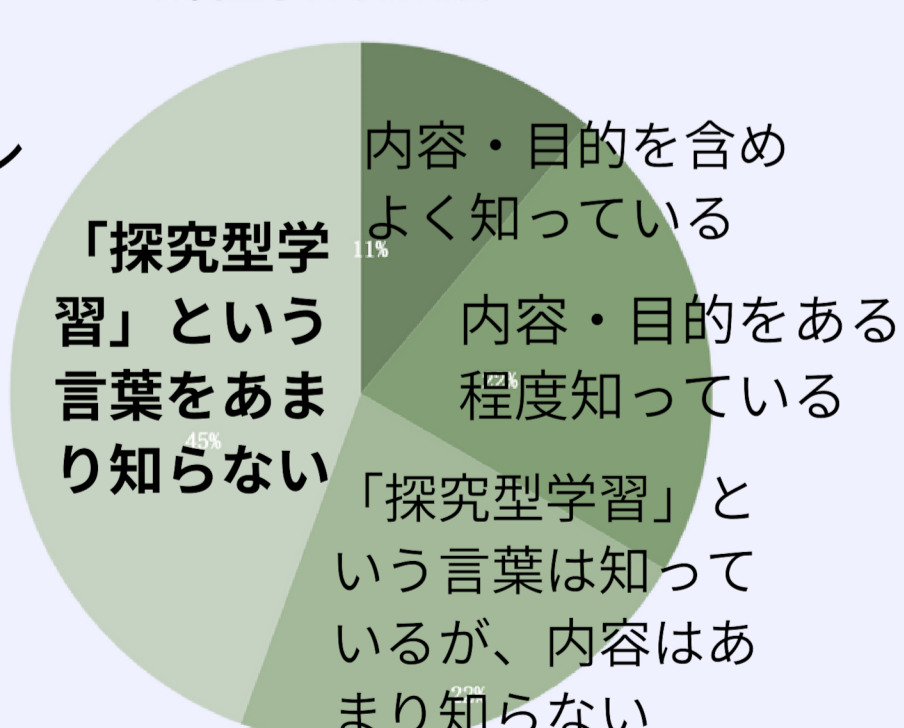
### (3) 効果検証

- ・基準を明確化するためにより細かい項目での評価
- 課題：基準設定の難しさ

### (4) 大人の関わり方

- ・大人の関わり方によって子どもたちの行動が異なるため、関わり方や誘導の程度についてさらなる検討が必要

探究型学習の認知度 N=9



一年間、本当にありがとうございました！







# 滋賀県長浜市

## テーマ：共創企業の発見

～大学生、地域、企業が一体となって持続的な活動を行う、共創企業を発見する～



### 現状把握

居住人口 0歳～20歳：教育環境の問題（大学連携プログラムの進捗の解決）  
20歳～50歳：**仕事先がなくて**流出  
**空き家発生**  
50歳～80歳：農業従事者**多く農業衰退**  
関係人口 国内一大学生を呼ぶ  
海外一旅行者・滞在者も呼ぶ

### 現地活動

第1回目の現地活動では、観光協会や地域おこし協議会へのヒアリング、農家や住民の方との交流を通して、田根にどのような課題、魅力があるのか探った。  
第2回目の現地活動では、glaminkaとの協働に向けて空き家マップを作成した。また、自治会の会合に参加して田根での生活のリアルな課題に触れたり、農家の方のお話を通じて、農業の根深い課題として一手不足や情報の不足があることを発見した。

### リサーチ活動

東京でのリサーチ活動においては、農業の課題について理解を深めるために日本農業法人協会の方からお話を伺った。  
農業の経営努力という視点や、米からより収益性の高い作物へ転換するトレンド、また農産連携という人材確保のあり方を学んだ。

### 活動内容

① **グランピング企業との創業 (glaminka)**  
空き家発生・外国人及び旅行者を呼ぶ。  
② **食品流通企業との創業 (tabeloop)**  
滋賀県の農業企業(L-Farm)との連携する。  
③ **スマート農業を活用した大学との連携**  
大学のスマート農業研究を田根地区でもてもらう。  
④ **就職支援におけるリクルートの連携**  
リクルートのCSR活動との連携する。  
⑤ **地域コミュニティアプリの活用 (piazza)**  
地域コミュニティアプリを長浜市に導入する。また、piazzaと協働する。

### 活動経過

① メールでお問い合わせし、企業の方とZoomでの話し合いの約束を決めた。Zoomでは企業の活動内容に関して質問しながら、滋賀県を紹介し、創業を勧誘した。企業の方々は肯定的な反応を示し、地域協力隊の方の連絡先を伝えた。しかし、その後、メールが来なくなり、再度メールを送ったが、連絡が取れなかった。  
② メールでお問い合わせし、企業の方とZoomでの話し合いの約束を決めた。Zoomでは企業の活動内容に関して質問しながら、滋賀県を紹介し、創業を勧誘した。しかし、少し消極的な反応を示し、企業のサービスの利用を逆に勧誘された。  
③ 協働に向けて打診中  
④ メールでお問い合わせをし、企業からこれまでの活動内容を紹介するのとお話をいただく。田根との連携を打診したところ、行き詰まる。  
⑤ 協働に向けて打診中

### 他大学の活動、関わり

田根では東京大学の他に慶應大学、滋賀大学、専修大学、早稲田大学、また個人で田根に関わっている方々が田根で活動していた。  
慶應大学はゼミ単位で田根に長期で関わり、コミュニティが深まるようなプログラムを企画し、縮小するコミュニティをいかに豊かにするかという点に焦点を当てていた。一方滋賀大学は、移住者の方へのインタビューなどを通じて、移住者と関係人口を増やすデザインサテライトフォーリーの構築を目指していた。早稲田大学は、東京の高校生と田根を結びイベントを企画していた。私たちが関係人口は外部と内部の繋がりの強化にあたりとすれば、我々もまた、滋賀大、早稲田大学は外部と内部を新たに繋ぐ活動をしていることになるが、その中でも企業と繋ぐという点において、やはり我々の活動には経済的な視点が必要になると、また実現可能性という点で課題になるということを確認した。

### 活動を通じた学び

「相互に利益になる」難しさ  
・地域協働に取り組んでいる企業は多く、我々学生に快く事業内容を紹介してくれることは多かった。しかし、やはり田根に足を運んでもらう、田根と協働をしてもらえなくなる、ハードルが上がる。企業の事業にとって、人材や経済の豊かさ、立地は重要であり、それを乗り越えるような協働の利益を見つけないと企業にはない。  
人材や経済、立地において不利であるのは「地方」の地域に普遍的な課題であるが、「協働の利益」は個別的にその地域の魅力から引き出せるものであるのではないと思う。田根地域で言えば、それは田根で活動する人々の多様でリアルなネットワークであると感じた。  
「OZの学生」、「OZの学生」といった目的を掲げているグループだけでなく、田根に各々の興味に基づいて関わっている個人や、そういったグループから抜け出て、自発的な活動を開始する個人が、田根で繋がって活動していた。こういった見えにくい価値を伝えるのが私たちの課題であり、これを理解してくれる企業にこそ協働の可能性があったように思う。  
・企業にとってどうのようにメリットになるのか様々な方面で考えてみる機会になった。活動を通じてわかった企業にとってのメリットとしては、自治会と地域おこし協力隊の方との連携と起業にあたっての町の人々とコミュニケーションが円滑に進んでいるという点があった。この2つの点が企業の方とのインタビューを通じてわかり、これらを後輩に伝えられた。より活動が容易になると思った。  
企業との「交渉」において  
相手の目標に立って物事を見るという交渉における原則の大切さを痛感させられた。企業に問いかけをせよと、容赦なく無視されて、相手とされないという「断られる」経験はプロジェクトの進捗にはつながらないもののチームメンバーにとっては大きな事になったと思う。成果をあげるためには、自分たち（と田根地区）が企業に何を提供できるのかについて深く考える必要があるということもわかった。

一方で、地域に関わる方々からアドバイスを受けたように、「とりあえず動く」ことも何より大事だとわかった一年でもあった。こちらが協働の可能性について深く考えるのはもちろん必要であるが、結局のところ企業が動くかどうかは企業人間によることである。また、私たちが企業に動くについて知っていることは、非常に限られている。「協働」について考えこむ時期があったが、その時間という活動は停滞していた。「とりあえず動く」ことが、実現可能性を高める第一歩であったように思う。

### 一年の活動を通じて

自分の全く知らない土地やそこに生きる人々の日常に少しでも入り込めたという経験自体が大変な学びだった。また、学内のチームを見て毛布や世代、国籍をも越えた多様なバックグラウンドをもつメンバーが集まっていた。意見をもち越えたことが、いつかきっとりと善果したこともあったが、親睦的な時間をたくさん共有することができた。さらに、田根地区は他大学の学生もフィールドスタディやボランティアを通して盛んに訪れる地域だったため、そういった学生同士は交流もでき、有意義だった。そして何より求められた条件に合わせて成果を出すことを確信した。置かれた時間と訪問回数の中で地域のことを的確に把握し、最善の提案を完成させることは想像以上の努力を要した。数多くの不測の事態に直面できたことも本活動を通じた学びの一つである。  
町の問題だけでなく、日本全体の覆れていた問題が見えてきて、とても意味深い学びになった。直接体験し、人々と話し合い、解決法を考えることも大切な学びだった。とりあえず視点から、現地の観察と遠距離での把握の融合がとても大事だった。これらもあつた問題に對してこう言う姿勢を持ってアクセスするように頑張っていた。





和歌山県上富田町ってどんなまち??

**位置** 和歌山県南部



**アクセス** 飛行機で羽田空港から約1時間  
大阪から約2.5時間

**人口** 15,709人（令和6年1月末日現在）  
半世紀以上にわたって増加

**名物** 梅干 温州ミカン、ひょうたん



フィールドスタディプログラムの課題

**町外**

スポーツセンターの利用人数の減少  
平日利用の低迷  
合宿等誘客対策

**町外**

スポーツジム利用者の伸び悩み  
住民の健康増進対策

様々な課題を抱える中で私たちに期待することとしては

1. スポーツセンターの利用者増加のためのイベント
2. スポーツ施策の提案及び住民のスポーツとの関わりを高める企画
3. 健康増進の啓発

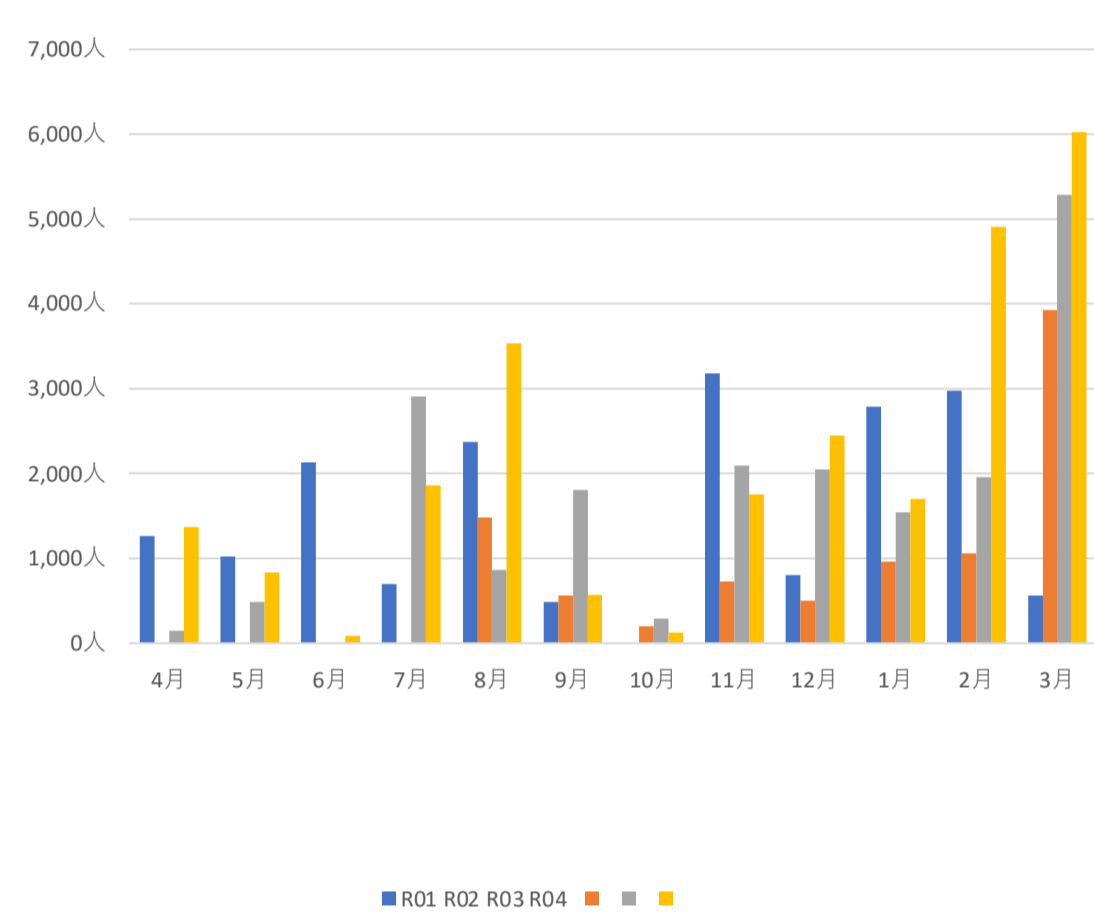
が提示されました。

幅広い課題に対応するため、メンバーそれぞれが独自に上富田町の課題を解決するための施策を考えました。

スポーツセンターの課題

合宿繁忙期の利用者数は十分に確保できています。一方で閑散期の利用は明らかに少なくなっています。現地の方々の話では、特に平日利用に関してスポーツセンター利用者数は低迷しているというのが現状とのことでした。

上富田町スポーツ施設の合宿利用



提案内容①

フライングディスクを生かしたスポーツセンターの利用促進と町民の健康増進施策を提案しました。

【フライングディスクに着目した理由】

- ① 老若男女が楽しめる11種目があること
- ② 2015年の国体において、フライングディスク競技の一部をスポーツセンターで実施した実績があること
- ③ 近隣の白浜町でビーチ・アルティメットというフライングディスク競技の大きな大会が開催されている

【概要】

- ① 体験会、講習会の開催 → 最初はスポーツ推進委員会の方に主導してもらう
- ② スポーツセンターの部分貸出やダイナミックプライシングの実施
- ③ 小中学校の授業でフライングディスクを扱う

提案内容②

スポーツセンター利用促進と町民の健康増進を目的として、インセンティブ事業の導入を提案しました

【概要】

- スポーツセンター利用、関連施設でのイベントへの参加等を**1ポイント**とする
- **15ポイント**と貯めると粗品贈呈（スポーツセンター利用1時間無料券、近隣施設で使える商品券、アマゾンギフト券等）
- その他、前期間と比較してスポーツセンター利用がどれくらい伸びたか、といったような**努力を評価した形でのポイント加算**も行う

→インセンティブを提供することで**スポーツセンター利用促進とそれに伴う健康増進**が期待できる

提案内容③

上富田町スポーツセンターで町民の健康増進を目的として実施されているスポーツイベントのウエルネスDAYを通じて町民の方のスポーツセンターの平日利用増加を図る施策を提案しました。

**具体的内容**

- 今までのウエルネスDAYに加え、**記録会を実施**。上位者には景品を準備。
- フライングディスクの**ディスタンス**を記録会用競技として採用

**利点**

- 記録会を通じて**自分自身の成長を可視化**し、練習へのモチベーションアップを図る。
- ウエルネスDAYは約2ヶ月に1度実施されており、短い期間で記録会に参加することでモチベーションの低下を防ぐ。
- 既存のイベントを活用することで**コストを抑える**。
- ディスタンスの練習には広い土地を持つスポーツセンターが最適。
- ディスタンスはルールが分かりやすく、強度も低め。

**懸念点**

- 記録会参加までの心理的ハードルの高さ

提案内容④

平日のお昼の利用が少ないということで、平日昼間の利用の促進策を検討ターゲットをお年寄り・小さな子供連れに絞って、新たに平日にスポーツセンターの利用者を増やす策を提案しました

企画名	ターゲット
全世代参加可能型スポーツ	親子 お年寄り
運動×〇〇	親子 お年寄り
ウォーキング	親子
こども広場	こども

ターゲットをわけて、スポーツセンターの既存の施設を使って具体的にどのように実施するのかについても、踏み込んで提案しました。

活動を通して得た学び

- 明確な答えのない課題に取り組むことは困難でしたが、自分達に求められているものは何かを考えながら話し合いや調査活動を行うことはやりがいがありました。提案から実現までの道筋についてより具体的に示すことができればより良かったかと思います。
- 学外の外で課題に取り組むことは今までにない経験だったので、色々な出会いや学びがあり、自分を成長させてくれたと感じています。
- 役場の方などたくさんの人と交流することができ、勉強になりました。地域の課題を解決する政策を作る難しさを改めて実感しました。
- 地元の方の交流させていただくなかで、地方の課題がどのようなものなのか、とてもありアルに知ることができました。また、その解決策を考える中で答えのない間に取り組む難しさを学びました。

# 1. 紀の川市の紹介

- 和歌山県北部に位置する人口およそ5万7千人の市
- 北は大阪府、西に和歌山市と接する
- 京奈和自動車道・阪和自動車道により、大阪へのアクセス良好
- 近畿大学生物理工学部のキャンパスが立地
- フルーツの街と言われており、多品種栽培が特徴
- 紀伊国分寺や粉河寺など、歴史的建造物が多い



## 2. 現地活動の概要

### 0 <第0回> ※地域おこし協力隊として実施

活動を本格的に始める前に現地のお祭りにボランティアとして参加 (台風により祭りは中止)  
 打田駅前カフェやまちなか図書館の開設をはじめとする、地域活性化企業人としての活動を行なっているCASEと合流、実際に紀の川市を回りながらブレスト



「産業」を知る

### 1 <第1回>

和歌山大学のゼミとの合同フィールドワーク  
 午前：紀の川市の地方創生に関する講義を受講、打田駅前散策  
 午後：テーマに沿って市内のスポットを見学、市庁舎にて和歌山大生とディスカッション

「人」を知る

### 2 <第2回>

地元のフルーツを使ったオープンカフェ、イチゴ観光農園の見学  
 地元映像クリエイター塾による取材の見学、古民家カフェにて粉河地域のまちづくりについての懇親会に参加  
 歴史資料館、紀伊国分寺跡、桃山地域のお屋敷「宮折」の見学



「地理」を知る

「歴史」を知る

### 3 <第3回> ※最終現地報告会

移住者交流会の時間を借りて、活動報告を実施。  
 3つの企画(右列参照)を実施する予定

## 3. 具体的な施策の提案

### 【コンセプト】

全ての人間は学び続けるもの。  
 これまで住民が気付いてこなかった地域の魅力を一枚外側の視点から「学んで」もらうための取り組みを提案する。

### 企画① 玉ねぎ小屋ワークショップ

#### 【背景】

かつて紀の川市(特に旧打田町)は日本有数のたまねぎの産地だった。たまねぎを冬から春にかけて乾燥させるため、写真のような小屋が多く建てられた。



#### 【内容】

- 1.参加者には事前に家の近くにあるたまねぎ小屋の写真を撮影してきてもらう
- 2.たまねぎ小屋とその周辺についてプレゼン、自分の持ってきた写真を見せ合って事前学習
- 3.実際に外に出て30分ほどたまねぎ小屋を目当てに、あらかじめ考えておいたルートに沿って地域をみんなで散策

### 企画② 古写真を用いた場所当て企画“Kino-guesser”

#### 【背景】

旧5町の特徴は風景に現れているが、若者はその違いを意識することがない。  
 →昔の地域の姿を知る高齢者にも参加してもらい、地域のことを改めて知る機会とする。



#### 【内容】

- 1.あらかじめ古写真を用意する(可能であれば参加者にも用意してもらう)
- 2.写真を見て、その場所が現在のどこに当たるか推測。その過程で自分の住む地域とその周辺地域の理解を深める
- 3.最後にその時代の航空写真と照らし合わせながら地域の変遷についても学習する

### 企画③ 移住者交流の実施

#### 【背景】

紀の川市には移住者が多数いらっしゃるが、外部から入ってきたこともあり人間関係を広げたいという思いがある。

#### 【内容】

私たちから発表・企画を行うだけでなく、移住者さま同士でも交流を深めてもらう

## 4. 活動から学んだこと

- ・紀の川で地域おこしをしようと奮闘する人たちとの出会い  
 →特に、自分たちとあまり年の変わらない若い人の頑張り(起業家精神)に刺激を受けた
- ・地域に行っても話を聞かないとわからない、地域固有の問題  
 →紀の川市の場合は、「五町合併だからこそ各地域で様々な動きが線で繋がっていない」など
- ・地域おこしの方法の難しさ  
 →行政と民間との間の「理想の地域像」のずれ

# 中海・宍道湖・大山圏域市長会

—松江市八束地区・安来市比田地区—

川合俊輔・菅原紀香・杉山拓都・西村若奈

## 【ミッション】

### 「観光を通じた地域活性化施策」の提案

### 【現地活動】

(1回目：9月4～6日)

主な活動

- ・ 観光施設の見学
- ・ 地域の方々との交流

(2回目：11月4～5日)

主な活動

- ・ 宿泊施設で提供予定の体験活動の一部を経験

- ・ 地域の方々との意見交換会

(3回目：2月28～3月1日)

- ・ 各地区での現地報告会

### 【地域について】

(松江市八束地区)

- ・ 中海に浮かぶ島 通称「大根島」
- ・ 米子空港から車で約15分の立地
- ・ 牡丹や朝鮮人参の栽培が盛ん

(安来市比田地区)

- ・ 安来市街地から車で約1時間の立地
- ・ 稲作など農業が盛んな地域
- ・ 住民による地域活性化の取組が活発



牡丹の花 at 由志園 (9月)



比田地区の方々との交流会 (9月)



八束地区の風景 (11月)



どじょうすくいの様子 (11月)

### 【提案方針】

(八束地区)

#### 〈目標〉

将来にわたり地域が活力を持ち続けること

#### 〈方針〉

- ① 地域外から人を呼び込む — 「攻め」
- ② 地域内からの流出を防ぐ — 「守り」

(比田地区)

#### 〈目標〉

地域に人を呼び込み、お金が落ちるように

#### 〈方針〉

- ① 作成中の観光プランに対する提言
- ② 地域について知ってもらう方法の検討

### 【プログラムを通じて得た学び】

- ・ 机上の学習からは得られない学び
- ・ 課題に対する**明確な解決策はない**
- ・ 知らなかった地域を「好き」に

現地報告会 (2月29日) の  
発表資料QRコード



# 地域で働く人と中学生をつなぐモデル事業 Teens Marketとその教材作成を通して

吉澤 侑志・藤永 紗衣・矢野 秀雄・魚谷 和史

## Teens Marketとは？

Teens Marketとは、高岡中学校3年生6名が自らのアイデアで考えた商品を12/2の土佐市のフォトゲイニングイベントで販売する活動です。中学生は地域の指導者が指導を行い、商品が売れていく過程（仕入れ、販売、経費）について理解を深めながら出店に取り組んでいきます。この、指導で使う教材と副読本を作成することが我々FS学生が取り組んだ部分です。



## Teens Marketに至った経緯と狙い

中学生に商材や社会の仕組みを理解してもらうための取り組みとして、これまで高知県土佐市内の中学校では理論学習の授業の時間を確保していました。地域の事業者さんと連携してそこで学んだ理論を実践する場を提供したいものの、地域の事業者さんや学校の負担を大きくできない現状にありました。その橋渡しをするものとしてFS学生が作成した教材を利用することで、関係者の負担を軽減しながら実践の場を提供できるのではないかとということでTeens Marketを実施するに至ったと伺いました。

土佐市としては今年度のTeens Marketを参考にして次年度以降もこの活動を続けていくだけでなく、生徒・学校・地域を掛け合わせた事業のモデルとして高知県全体に発信していくことも狙いとしています。

## 作成した教材の内容とその流れ

作成した教材は4回分で、それぞれ①役職と出店内容の決定、②仕入れと企画書の作成、③予算の作成、④マーケティングオペレーションに着目した内容のものを作成しました。作成した教材はガイドとともに土佐市の方にお送りし、第2回を除き地域の指導者の方に指導をしてもらいました。第2回については1回目現地訪問の時にFS学生が指導をし、中学生と議論を行いました。

この話し合いは月に2回のペースで開かれ、中学生は指導を受けながら出店の内容を決め、12/2のフォトゲイニングに臨みました。

## 出店内容と当日の様子

地域の方による指導と話し合いの結果、むすび食堂さんと連携して1個750円で2種類のお弁当を50個ずつ仕入れ、1個900円で販売しました。お弁当の販売に際しては広告をデザインし市内の小中学校で配布し、SNSで情報発信も行いました。またお弁当には生徒がデザインしたロゴをつけて販売を行いました。

当日は第2回現地活動としてFS学生も現地に赴きました。当日は仕入れた分のお弁当100個を完売することができました。ただし、総計としては90,001円を売り上げ、15,001円の利益が出たものの、最後の会計で1円のズレが生じてしまっており、ここには課題が見られました。



## 活動としての振り返り

出店までの部分（教材）に関しては、最初から最後までを通して土佐市の方とFS学生の両方が手探りの状態で取り組んでいました。そのため、今回の出店では問題なく進んだものの、教材の内容や進め方に関しては改善の余地があるように感じています。

また活動としての意義に関しても、商材や社会の仕組みについての知識を実践に移す場になれたとは感じています。その一方で、3/9, 10の第3回現地活動で、土佐市の方と話し合い、この部分を整理し地域を応援する側面をどのように取り入れるかや、学園祭の出し物のような形で終わらないための工夫が来年度以降の課題として挙げられました。

## 今後の展望

来年度も、今年度の教材や活動の様子を参考にしてこの活動を続けていくことは決まっております。今年度の活動に参加した中学生を修了生とする事業モデルも考えています。最終的にはこの事業モデルを高知県内で実施していくことを目指し、来年度以降もこの活動を続けていく予定です。私たちFS学生としては今年度の活動に際して感じたことなどをしっかりとまとめ、来年度以降も参考にできるような形で引き継ごうと考えています。

### Teens Market

9/26(火)  
・仕入れについて  
・企画書の作成

#### 仕入れについて

◎仕入れとは  
前回学習したとおり、小売業者は生産者や卸売業者から商品を仕入れて消費者に販売します。

つまり、商品の仕入れをしないと「売るもの」が手元がありません。仕入れは、小売のスタート地点といえるでしょう。





# より魅力ある嶺北高校を目指して

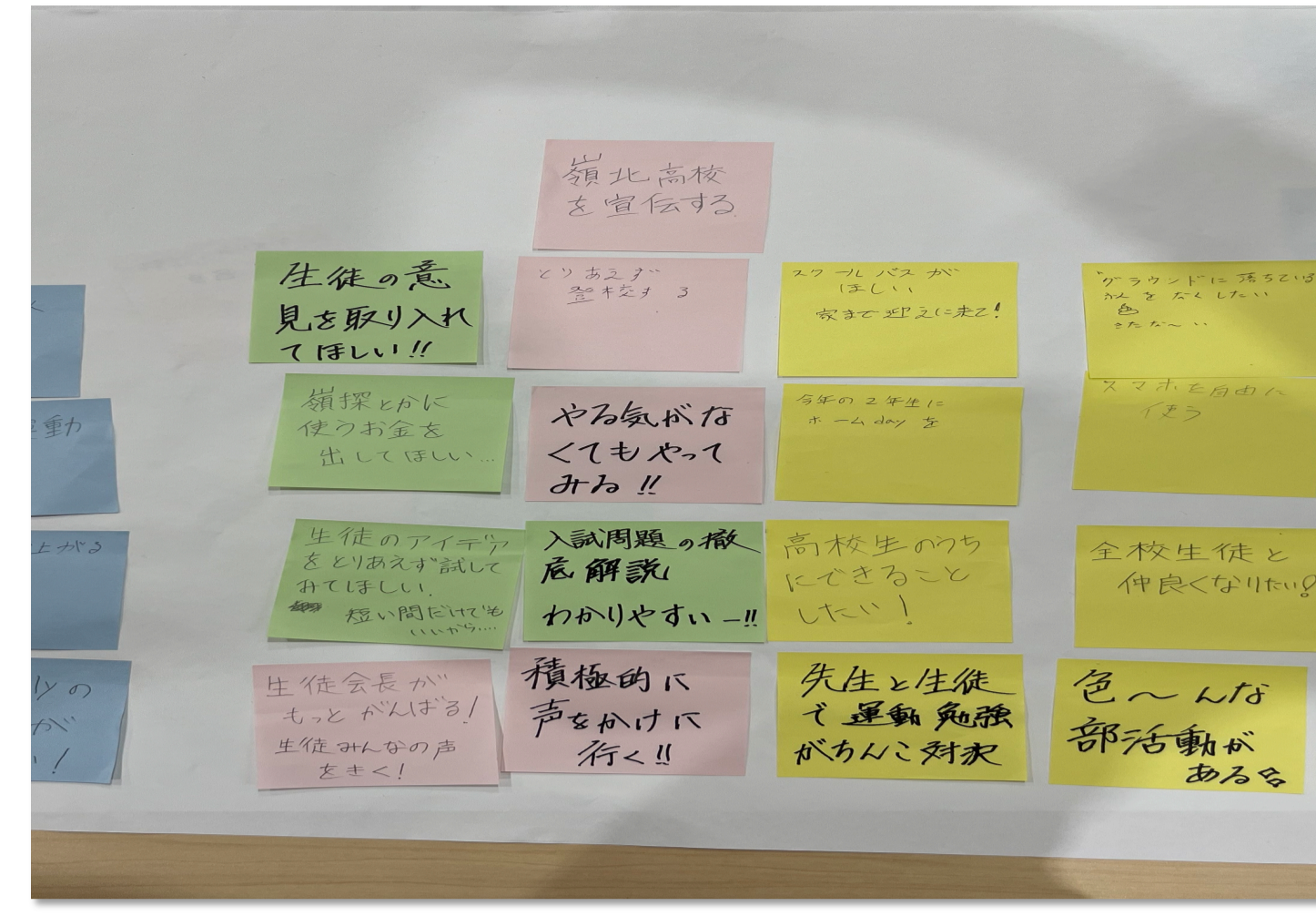


嶺北高校魅力化プロジェクト[1]

嶺北地域[2]

## 導入1：嶺北高校魅力化について

- 嶺北高校…高知県嶺北地域（4ヶ町村）内に**唯一の公立高校**
- 入学者数の減少に伴う**統廃合の危機**が課題
  - 地域から公立高校がなくなることによる地域の衰退…
- 今年度FS土佐町チームのテーマは「**嶺北高校魅力化**」
  - 特に、来年度からの5ヶ年のアクションプラン策定のサポート



WSで得られた意見



嶺北の大自然

## 導入2：魅力化のこれまで

- 「**嶺北高校魅力化プロジェクト**」…2018年度に発足、5年ごとの計画
- 過去5年間を通して、**入学者増加**をはじめとする一定の成果を上げてきた
- 特徴的な取り組みとしては、**地域みらい留学制度、公営寮、公営塾、地域外留学生の身元引き受け（嶺親）**などがある

## 第2回現地調査：地域住民向けWS

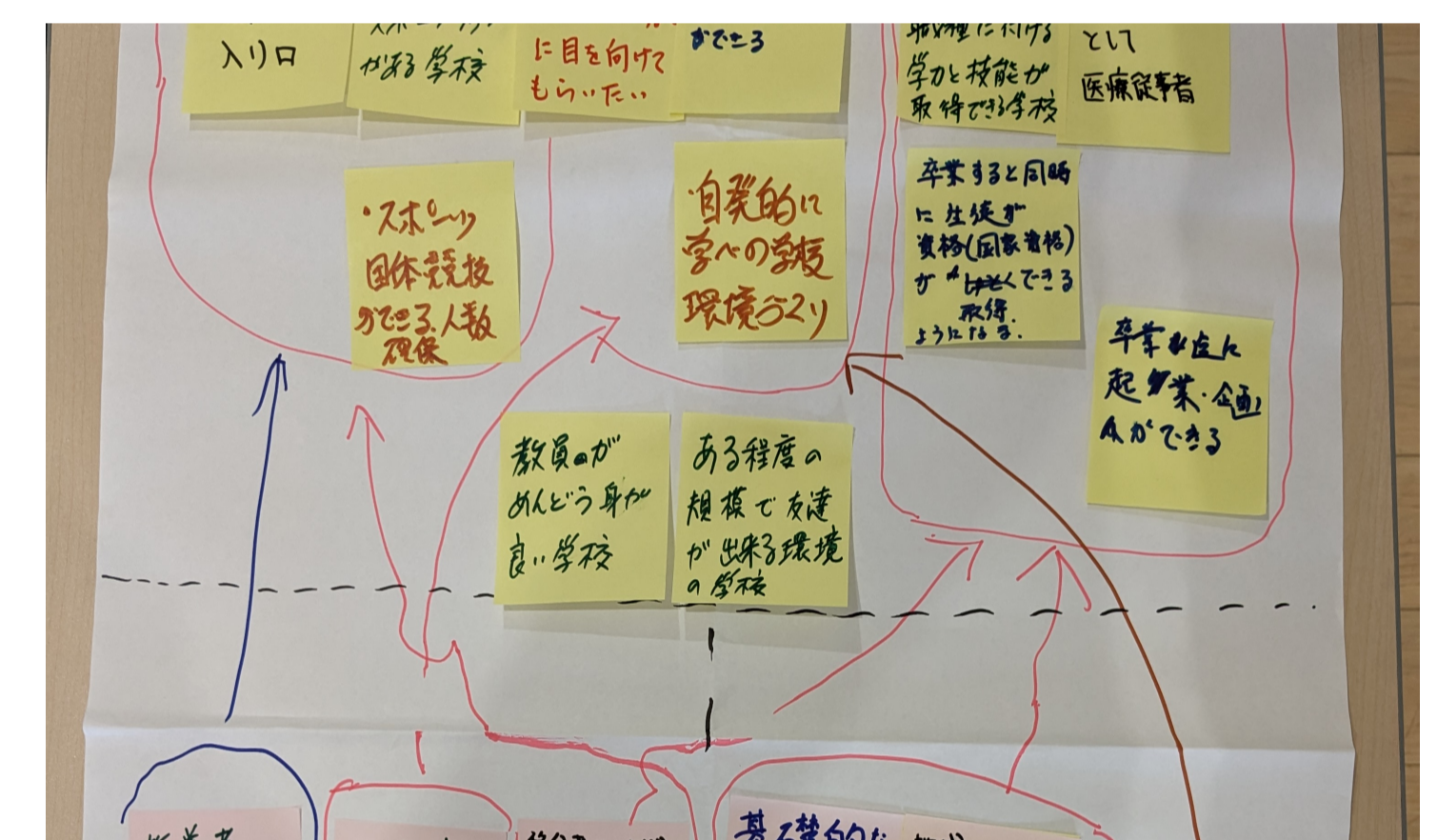
- 第2回現地調査：2023年11月11日～11月12日
  - 11月11日に公営寮生徒（地域外生）との交流および地域住民向けWS実施
  - そのほか、第1回現地調査で行けなかった町村でのフィールドワークを実施
- 地域住民向けWSでは、**生徒向けWSで出た意見を共有し、それを元に魅力化の今後についての議論**を実施

## 導入3：FSとしての関わり

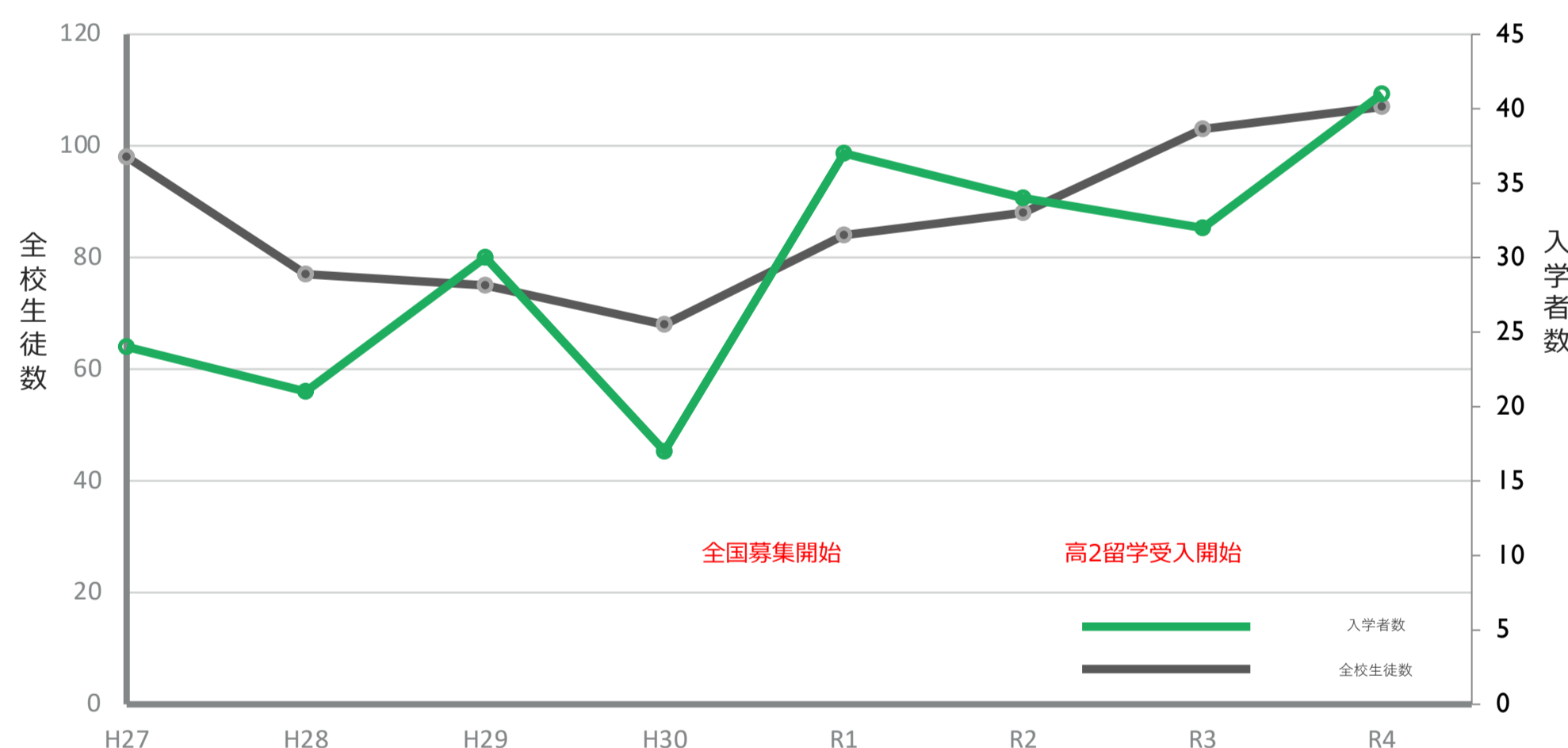
- 自治体側からの現状共有後の疑問：「**そもそも生徒たちは自分たちの通う高校についてどう思っているのか？**」「**魅力化PJに対する生徒の評価は？**」
- 「**嶺北高校および魅力化PJに対する生徒の声を聞き、大人たちに届けよう**」



WS中の風景



WSで得られた意見



嶺北高校生徒数の推移

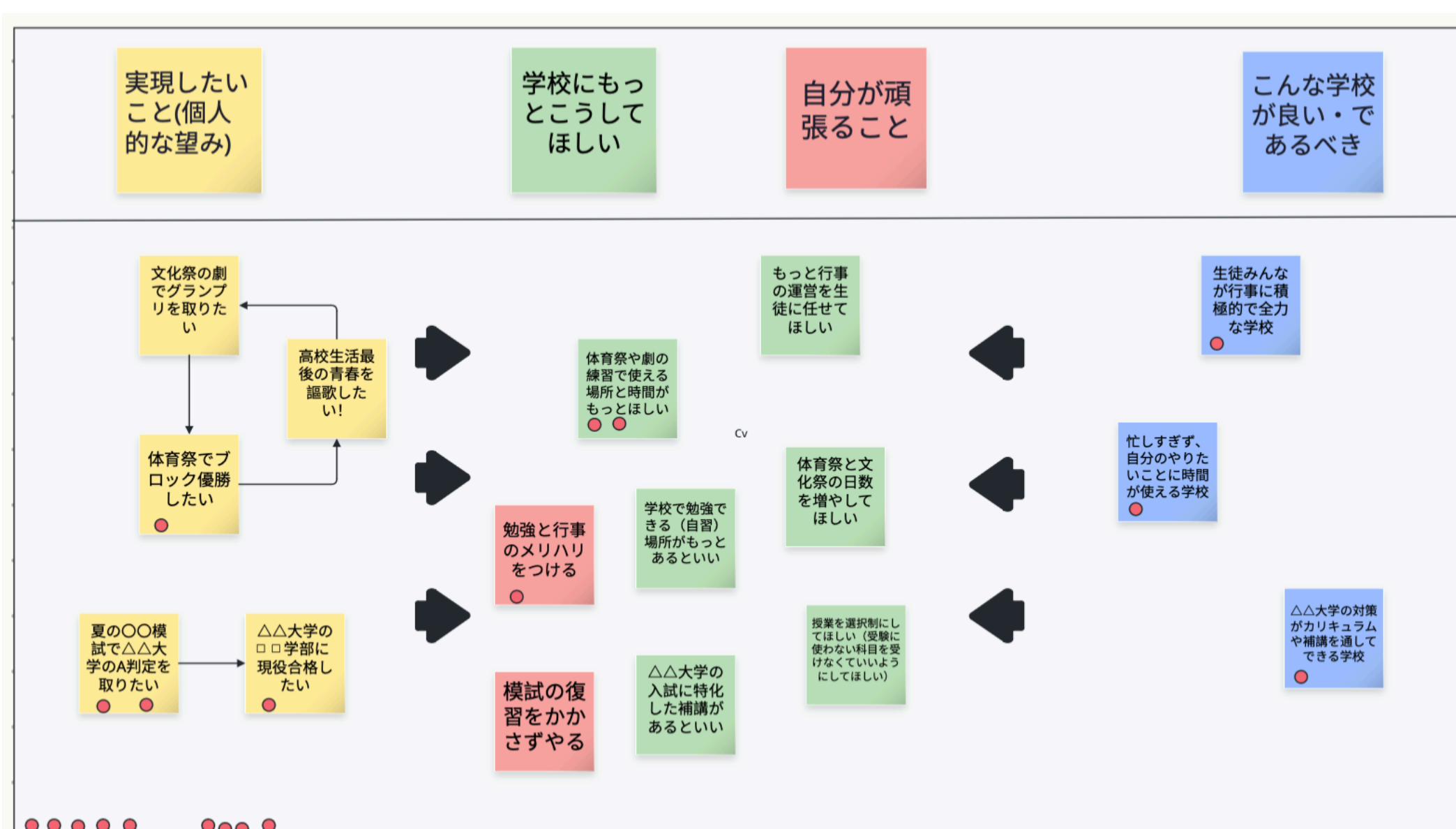
## 政策提言

2回のWSの意見を元に高校と地域が高校魅力化ロードマップを作成。それに付随して、我々からも政策提言を考案。

- 探究学習の充実
- 多様な経歴を持つ社会人の参入促進
- 生徒会議の設置

## 第1回現地調査：生徒向けWS開催

- 第1回現地調査：2023年8月31日～9月2日
  - 8月31日には魅力化PJのキーマンへのインタビュー、9月1日には生徒向けWS開催
  - そのほか、嶺北地域に関するフィールドワークを実施
- 生徒向けWSでは、**付箋と模造紙を使ったワーク**を実施



WS設計

## 活動を通しての学び

- 地域が一丸となって進める、高校魅力化**  
地域住民のWSへの参加や嶺親、魅力化事務局の尽力など、地域内の様々な大人がそれぞれの立場から魅力化を応援する嶺北地域の力強さを学んだ
- 「こどもの声」を聞き、そこからはじめる**  
生徒向けWSでこどもの意見を聞いてみると、これまでの計画の目標や施策には反映されていなかった主体性が見えてきた
- 「外部者」だからできること**  
「嶺北の外」から来た「大学生」だからこそ、違った視点から見えることや感じることも、言えることや役立てることがある

# 一年間ありがとうございました！

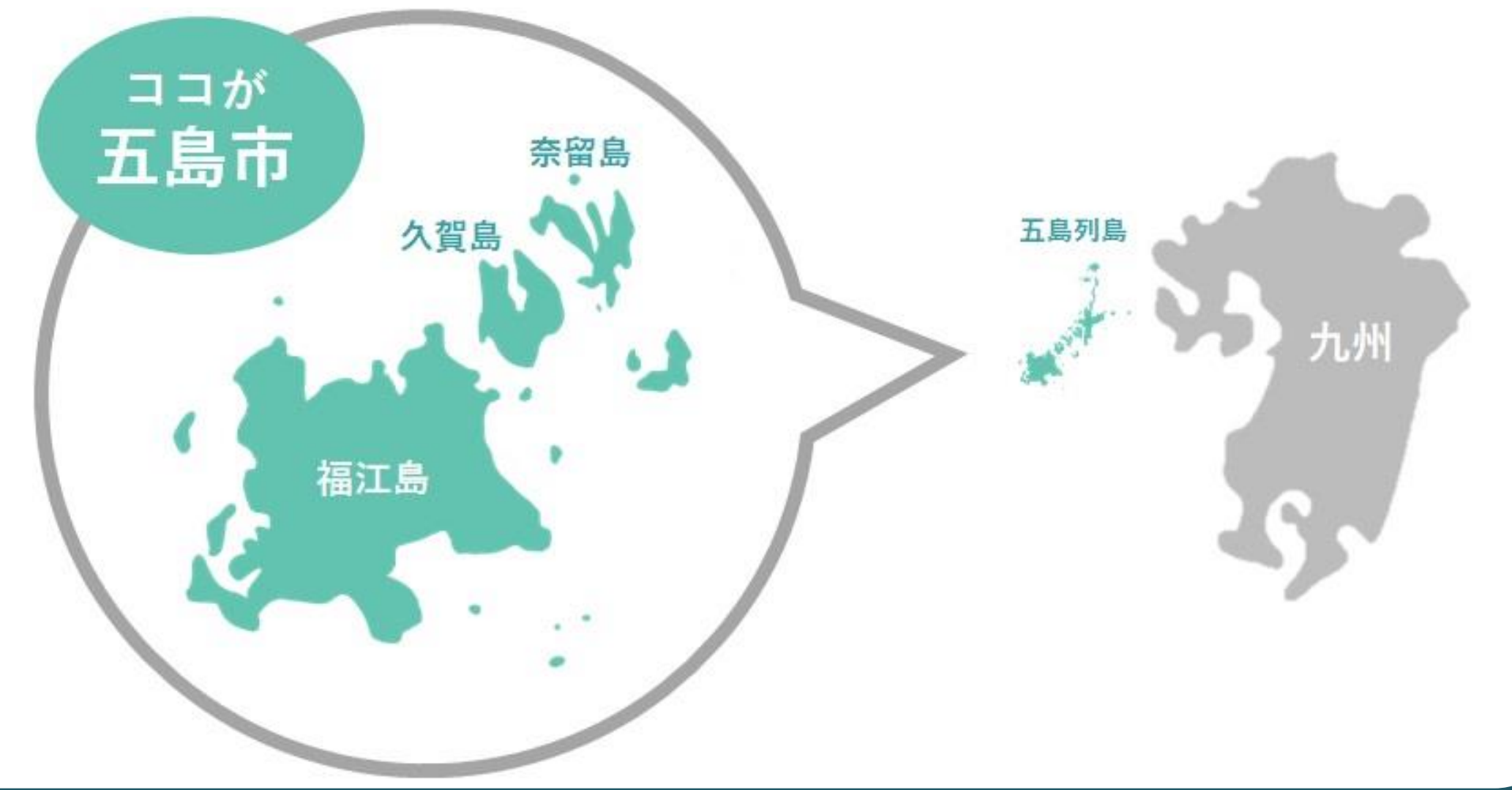
# 長崎県五島市（岡本彩、橋本匠、松香怜央、岡野明莉）

島に残る伝統文化（神楽や念仏踊り「チャンココ」「カケ」など）の子供たちへの伝承

## 五島市の概要

- 九州の最西端、長崎県の西方海上約100kmに位置。
- 五島列島の南西部にあって、総面積は420.12km<sup>2</sup>、10の有人島と53の無人島から構成。
- 2004年8月1日、福江市、南松浦郡富江町・玉之浦町・三井楽町・岐宿町・奈留町の1市5町の合併により誕生。

人口：34,488人（19,490世帯）（2023年12月）／移住者数：270人（2023年）  
高齢化率：41.5%（2023年1月）  
児童生徒数（学校数）：小学校1,486人（14校・1分校）／中学校785人（11校・1分校）  
／高等学校775人（5校）（2003年5月）



## 五島神楽（玉之浦神楽など）

五島列島各地で神職を中心に伝承されてきた神楽で、キリシタン大名が増えていた時期と同じくして広まり、400年以上引き継がれている。国の重要無形民俗文化財に指定されている。FSでは主に白鳥神社の「玉之浦神楽」に携わった。



## 念仏踊り（「チャンココ」など）

起源は不詳だが、お盆の時期に死者を弔うために、半袖襦袢に素足のまま花笠をかぶり、腰みのをつけて太鼓を抱き、重鉦と小鉦の音と歌声に合わせて舞い踊る、福江に伝わる古い念仏踊り。地区によって呼び方が異なる（「チャンココ」、「オーモンデ」、「オネオンデ」、「カケ」など）。

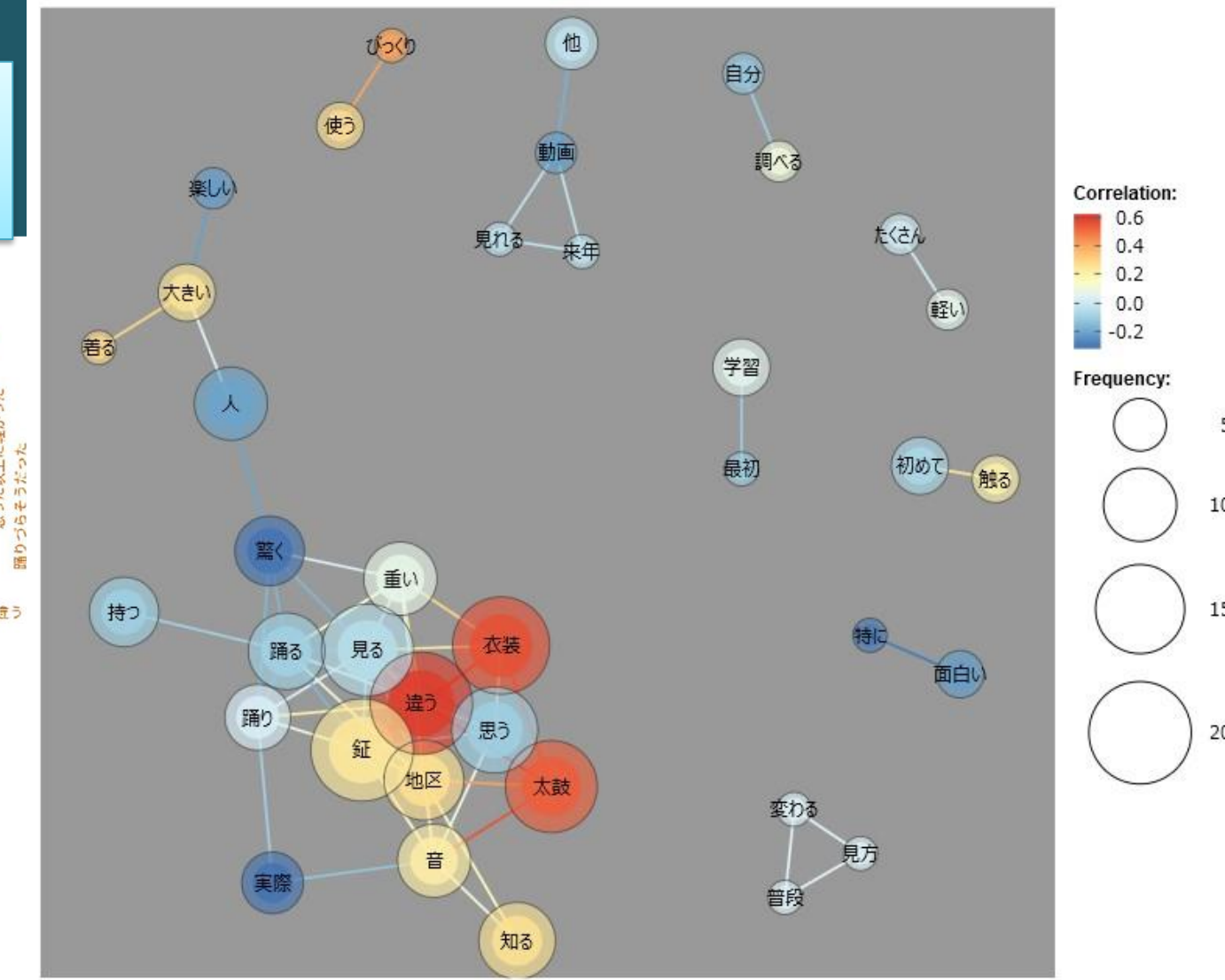
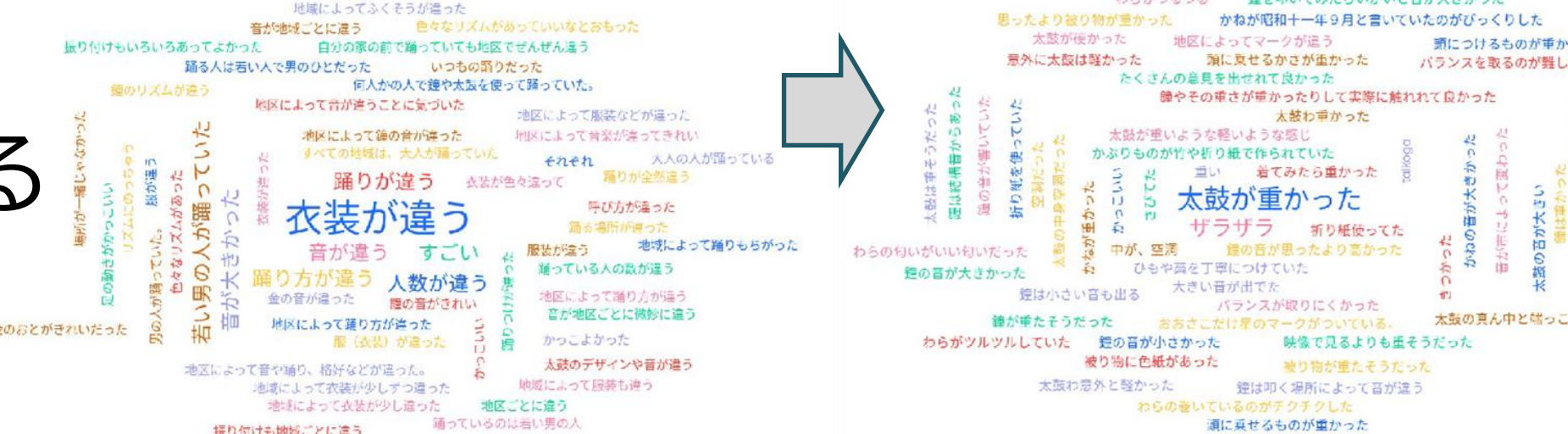


## 第1回現地活動（2023.9.20-22）

- チャンココ青年団との交流
  - 3地区のチャンココの踊りを見学・楽器や装飾に触れる
- 玉之浦神楽保存会との交流
  - 神楽の練習風景を見学・体験
- 五島市内の小学校・中学校で、チャンココ・五島神楽のWSを実施
  - チャンココについては本山小と翁頭中において、五島神楽について玉之浦小中において実施。WS前と後でどのように児童・生徒が変容したかをデジタルツールを活用して記録。

授業開始時：視聴覚情報から得た表現中心

授業終了時：触覚や嗅覚を含めた多様な表現へ



授業后感想の共起ネットワーク（相関）図

## 第2回現地活動（2023.12.15-17）

- チャンココが継承されている地区の老人会との交流
  - ある地区で若い頃にちゃんこを打った世代との意見交換
- 神楽を継承している白鳥神社宮司との意見交換
  - 神楽の歴史に関するお話や継承者不足の問題についてヒアリング
- バラモン風の継承者を訪問
  - 伝統工芸であるバラモン風職人として研鑽を積むUターン移住者とその師匠との意見交換



## 現地報告会（2024.2.10）



- 第1回及び第2回の現地活動で交流した方々を含め、地元から42名の方々が参加
- 約1年間の活動内容を振り返りながら、それぞれのメンバーの気づきや変化に関するコメントを共有
- 地元の方々と学生の交流をダイアログ形式で実施

## 残された課題

- 口頭伝承が多い中で、数値化やデータ化が難しい
  - 実演芸能の客観性をどのように見出すか
- WSを通じた「触る」ことの重要性
  - どのように興味を持ってもらうか
- 宗教儀式という特性
  - 学校行事・教育課程にいかに関与させていくか
- 学校教育中心の日本の教育の特性
  - 学校の統廃合が進む中で、学校教育以外でどのように子どもが触れる機会を増やしていくか

## プログラムを通じて学んだこと・各メンバーの変化と成長

- 五島での活動は、伝統芸能という分野に初めて生身で触れ合った貴重な経験でした。「伝統芸能継承の重要性」を文字列ではなく、眼前の事実として捉え直すことができ、伝統の次世代にとってのあるべき姿を考える契機になった。（橋本）
- 伝統芸能はただ「保存」するだけでなく、その共同体に与えられた文脈とともに「保全」する必要があることを、陳腐ではあるが、肌身をもって感じた。（松香）
- 五島の伝統芸能の多様性を感じることができた。伝統芸能を通して生まれる人と人との繋がりも大切にしていかなければならないと感じた。（岡野）
- 伝統文化とりわけ無形民俗文化財と工芸技術の伝承を通して、主観性と客観性の両面でのアーカイブ（記録）の必要性に関する気づきが得られた。次世代への継承という観点では、従来型の方法だけでなく多様なアプローチの可能性について模索する機会となった。（岡本）



## 1. 長崎県南島原市

人口: 42,485人  
(R5.1末時点)

面積: 170.11 km<sup>2</sup>



## 2. 南島原市の魅力(1)

- **豊かな山と海**
  - 雲仙岳と有明海 自然に囲まれた立地
  - 夜は自然の音を聞きながら綺麗な星空
- **住民を癒す温泉**
  - 各所に温泉が存在
  - 住民の憩いの場になっている



豊かな自然を望む道路



真砂温泉

## 3. 南島原市の魅力(2)

- **充実のアクティビティ**
  - イルカウォッチング/SUP/サイクリング/山登り/  
ボルダリング/九州オルレ
- **特産品・名物・料理**
  - ジャガイモ/タマネギ/タチウオ/ひよつる/クルマエビ
  - 島原手延べそうめん/とら巻/ちゃんぽん/トルコライス



SUP体験



島原手延べそうめん

## 4. 南島原市の抱える課題

- 人口流出・少子高齢化
  - 南島原で育った若者が他地域に流出
  - Uターンで帰ってくることも少ない
  - 家業が引継げず廃業
- 空き家問題
  - 親族がなくなり不動産を相続したが、  
処分に関り、空き家状態で放置  
→時間の経過と共に廃れ、使用不可能に  
近隣住民の迷惑にも

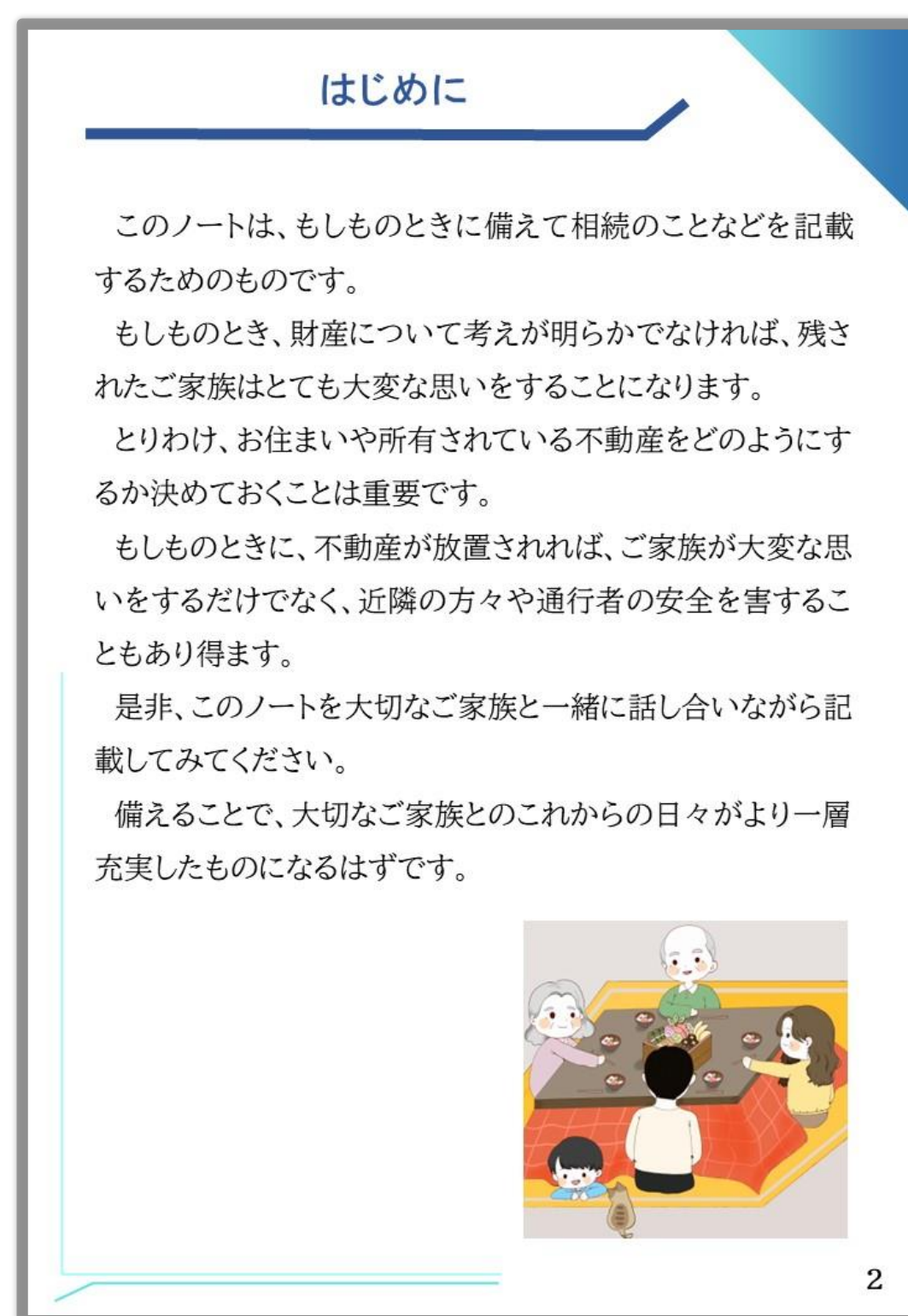
## 5. 第一回現地活動

- 空き家の現地視察  
移住者の方からの聞き取り調査
- 各地を観光  
大浦天主堂/ペンギン水族館  
イルカウォッチング/SUP/梨園



## 6. 課題解決のために

- 『おうちの手帳』
  - 不動産に絞った分かりやすい終活ノート  
(従来のものよりシンプルで、気軽に記入  
できるものを目指した)
  - 人口流出で南島原市を離れた現役  
世代と親世代との話し合いが困難  
→手帳の記入という機会を通して  
コミュニケーション



## 7. 第二回現地活動

- 『おうちの手帳』の試作を編集
- 市役所内で現地職員との打ち合わせ
- 南島原市に住む現役世代/不動産業者/  
老人会会長にヒアリング調査



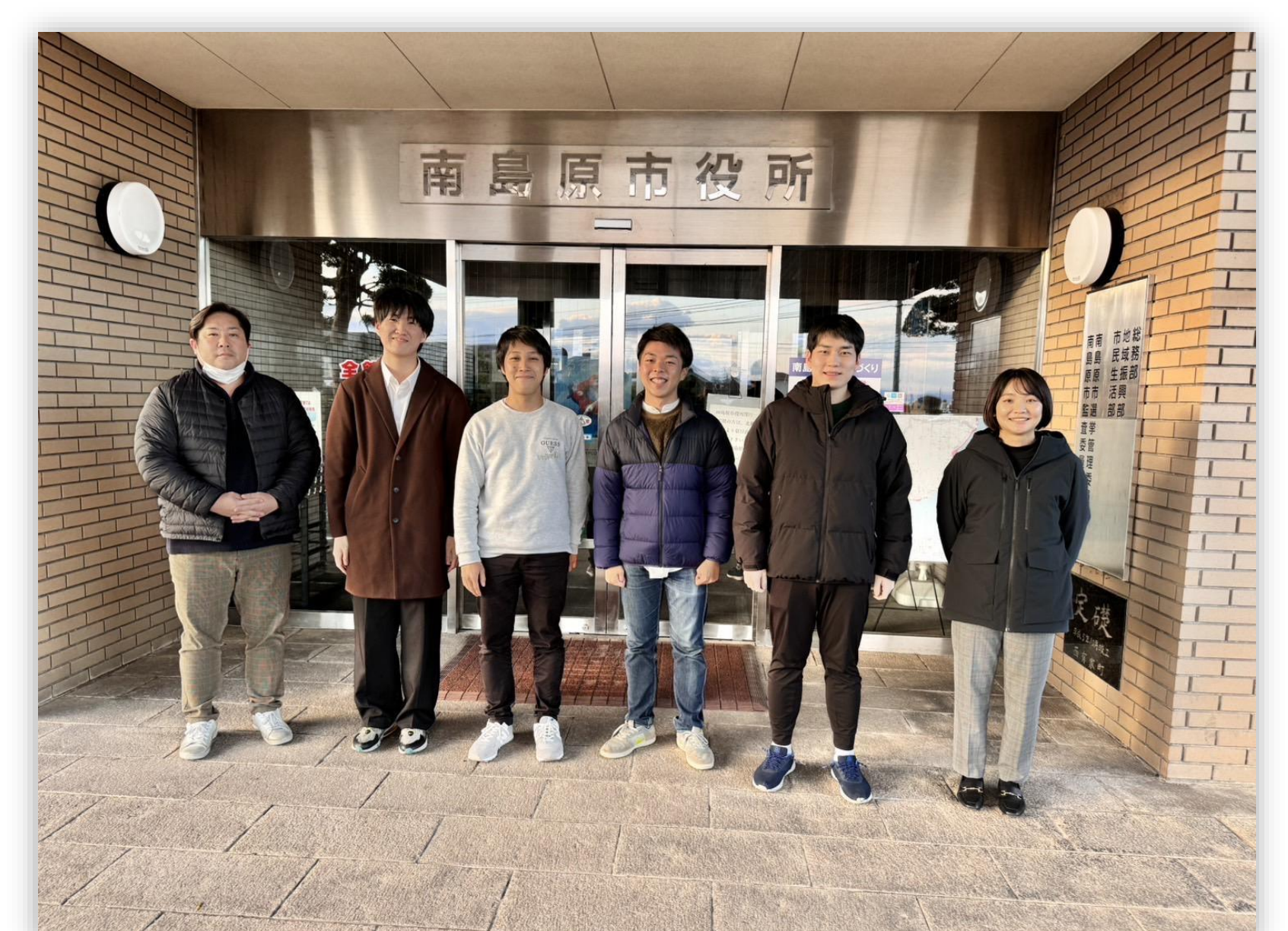
## 8. 今後の展望

- 3月19日/20日に第三回現地活動
  - (1) 完成した『おうちの手帳』を  
現地住民に周知
  - (2) 現地報告会
- 『おうちの手帳』を継続的に配布  
年々更新されるデータを『おうちの手帳』に  
反映できるよう、体制を整える。

## 9. 東大FSを通して得た学び

- 社会問題の解決の難しさを実感
- 地方で生活する住民の方と交流、  
価値観の多様性を学ぶ
- 地域の「わからない」ことに対して、  
寄り添って理解するプロセス

## 10. ありがとうございました!



市役所前にてFSメンバーと南島原市地域づくり課職員  
(敷島さん, 溝田さん)

# 宮崎県諸塚村グループ最終報告

## ～関係人口の創出に向けて～

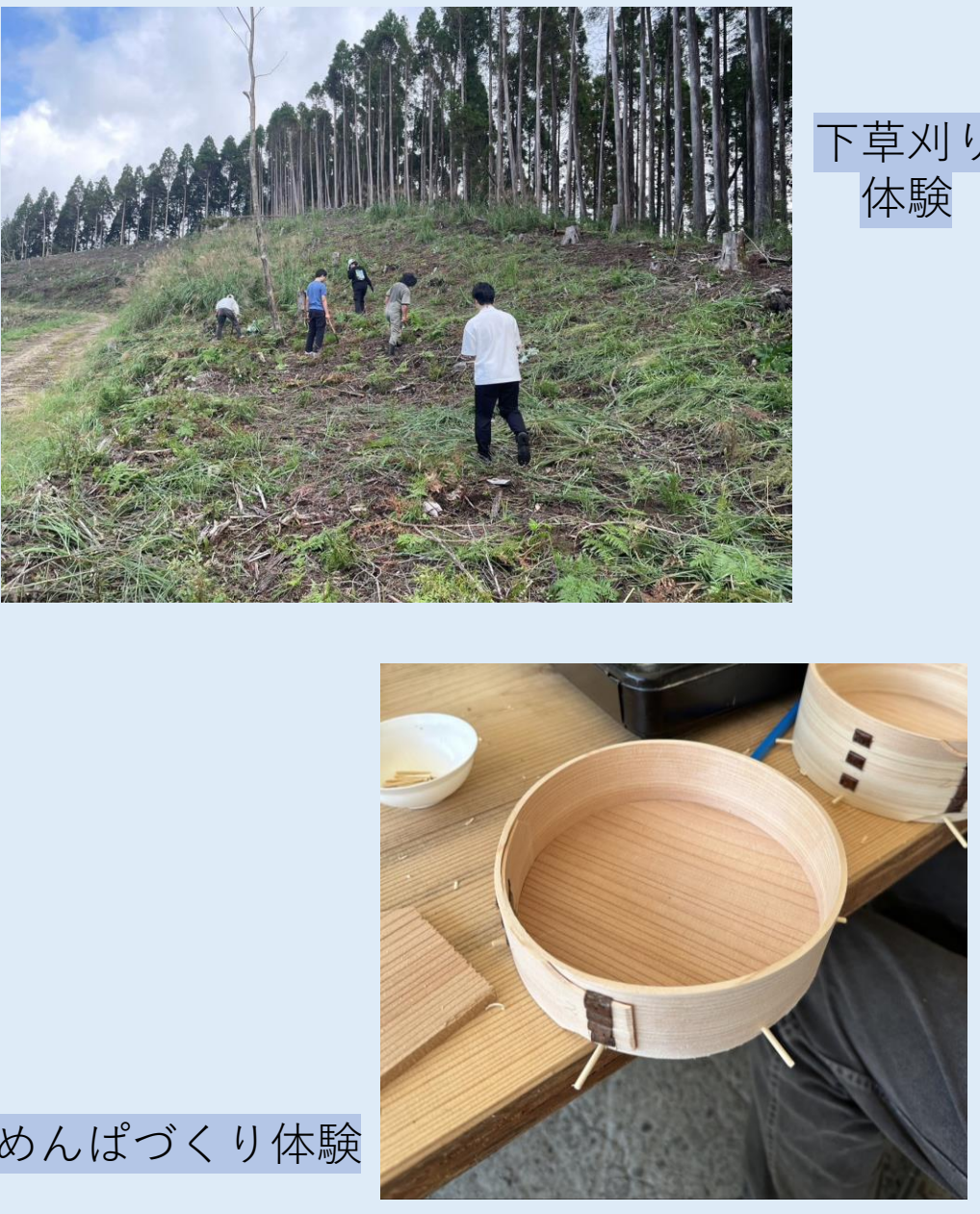
### 諸塚村の概要

宮崎県の県北地域に位置（「もろつかナビ」より抜粋）  
 人口：1,352人（599世帯）令和6年1月時点  
 産業：四大基幹産業（林業、椎茸、畜産、茶）  
 その他の特徴：林野率95%、「林業立村のむらづくり」、  
 FSC森林認証取得、林道密度日本一、世界農業遺産、自治公  
 民館制度、成人式発祥の地etc.



### 活動の概要

**第1回**  
 「諸塚のあらましに  
 触れた4日間」  
 (林業、椎茸など基幹産  
 業の施設見学、宮崎大  
 学学生交流)



**第2回**  
 「生活と文化に  
 密着した3日間」  
 (住民へのインタビュー  
 の実施、郷土芸能発表  
 大会への参加)



**第3回**  
 「夜神楽とともに  
 過ごした4日間」  
 (夜神楽準備、参加、  
 片付け、FS現地報告会  
 の実施)



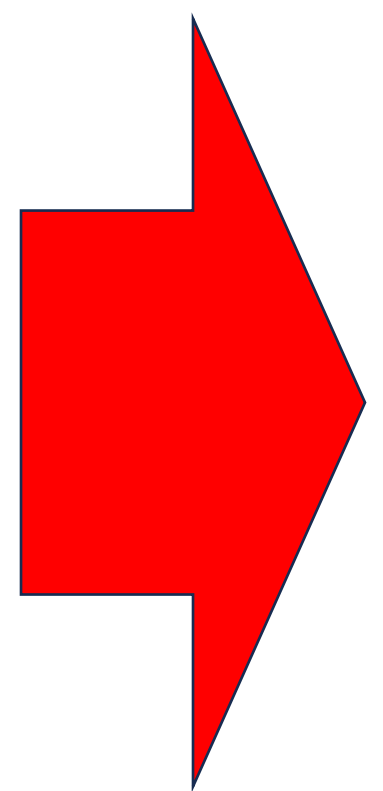
### 強みと課題

#### 強み

- 4大基幹産業
- 伝統芸能
- 自然との暮らし
- 人との関わり

#### 課題

- 人手不足
- 自然と共に生き  
る難しさ
- 村の情報のICT  
化



大学生と  
諸塚村の  
関係創出

### 大学生をターゲットにする理由

- 進路決定の  
段階にある → 今後の人生で諸塚を選ぶ  
可能性
- 好奇心が旺盛 → 諸塚に興味を持つ可能性
- 私達と同年代 → 価値観が理解できる

### 施策

#### 五月祭

2024年5月の五月祭において、諸塚村の魅力を発信する企画を出展する。特産品の販売やパンフレットの紹介、アンケートの回答などを通して、気軽に諸塚に関わってもらえる機会を提供し、その後の継続的な特産品の購入や諸塚訪問、現地活動といった継続的な関係構築に繋げていきたい。



#### 大学生の森

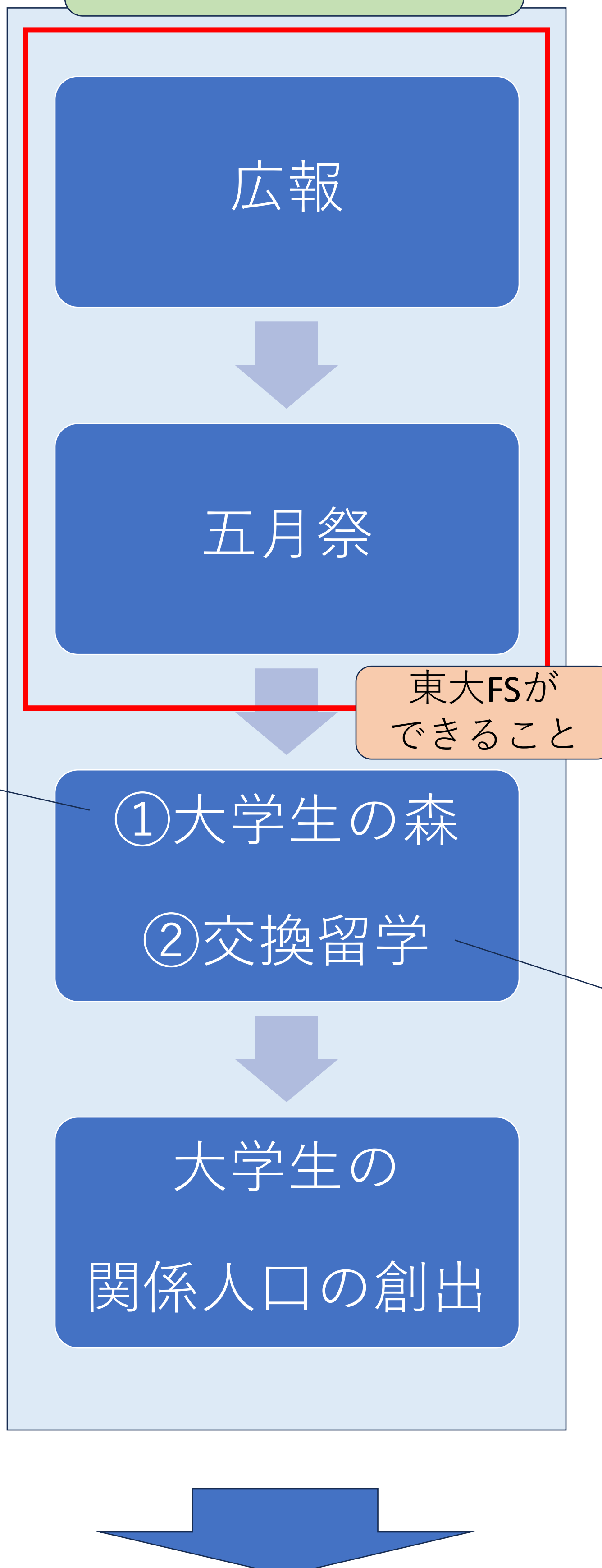
**1.概要**  
 森林管理への関わりを通して、諸塚との継続的な繋がりを感じてもらうことが目的である。諸塚がいかにして森林を守り受け継いでいるのかということを知ってほしい。参加者側にとっても形として残るものなので、より強い思い入れにつながると考えている。

**2.具体的な施策**  
 割り当てられた一定区画の下刈りなどの作業を行う一方で、そこに看板を立てたり、諸塚の特産品を受け取ったりする制度としたい。



定期的に訪問したり、イベントに参加したりする人口の形成などを旨す

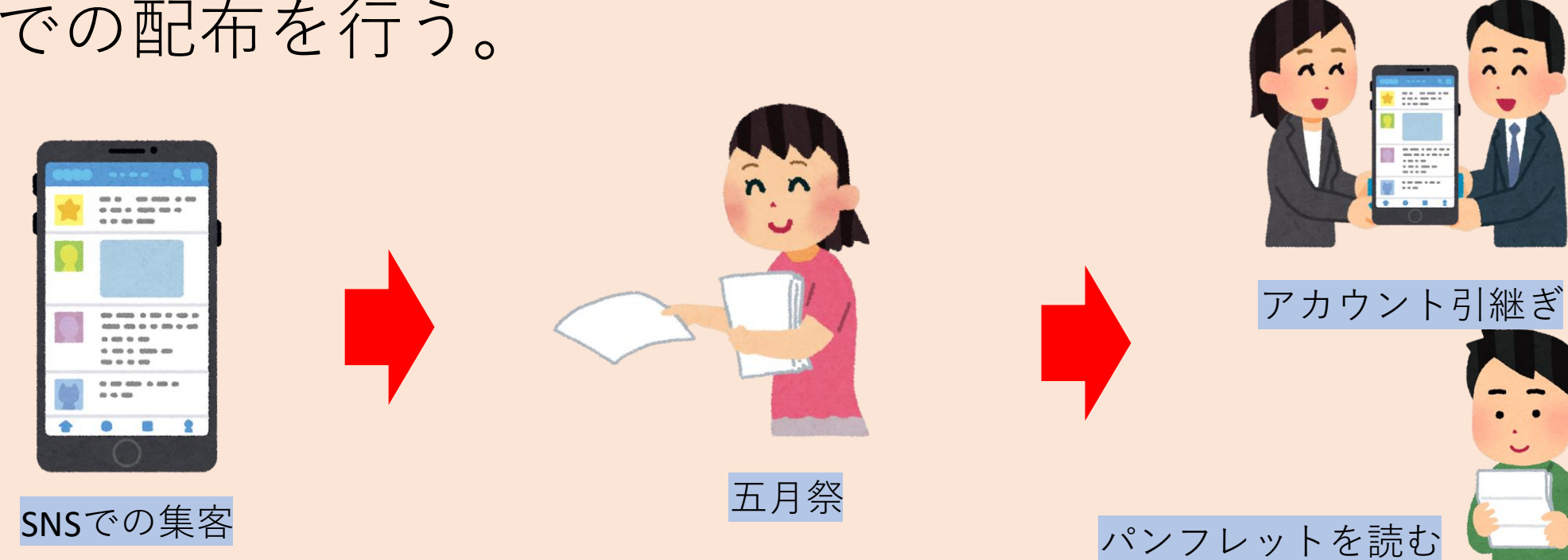
#### フロー



東大FSが  
できること

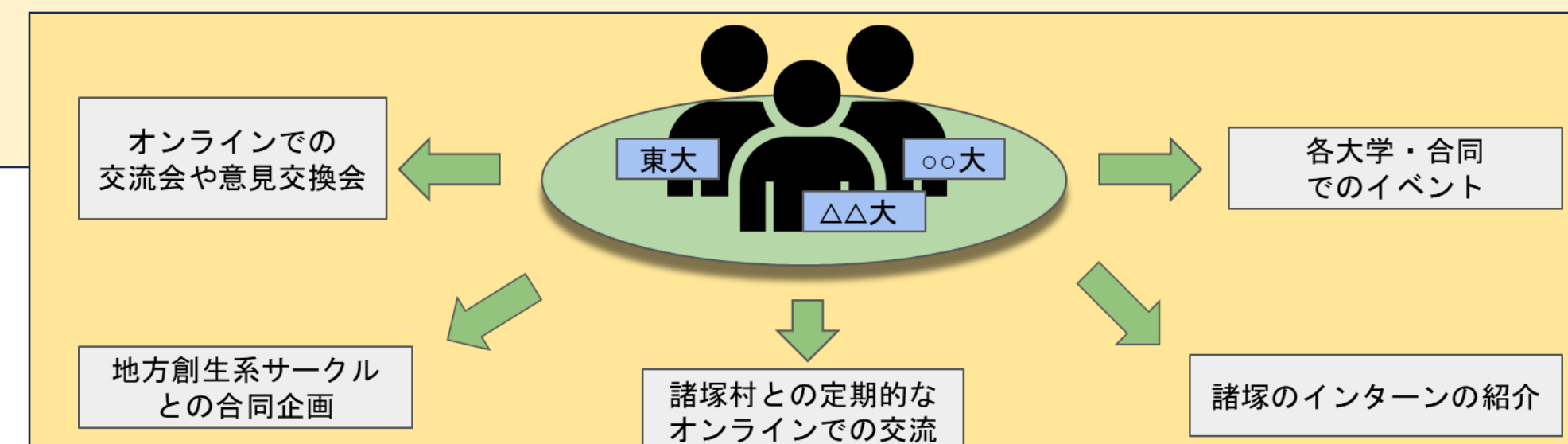
#### 広報

- 1.五月祭の集客目的としてのSNS  
五月祭の集客を目指して、X（旧Twitter）やInstagram、noteなどのアカウントを開設し、運用する。
- 2.アカウントの引継ぎ  
その後は、諸塚に関する情報やFSの活動などを紹介するアカウントとして来年度のグループに引き継ぎたい。
- 3.パンフレット作製  
東大生・大学生だからこそその視点で、主に同世代を対象としたパンフレットを作成し、五月祭やオンラインでの配布を行う。



#### 交換留学

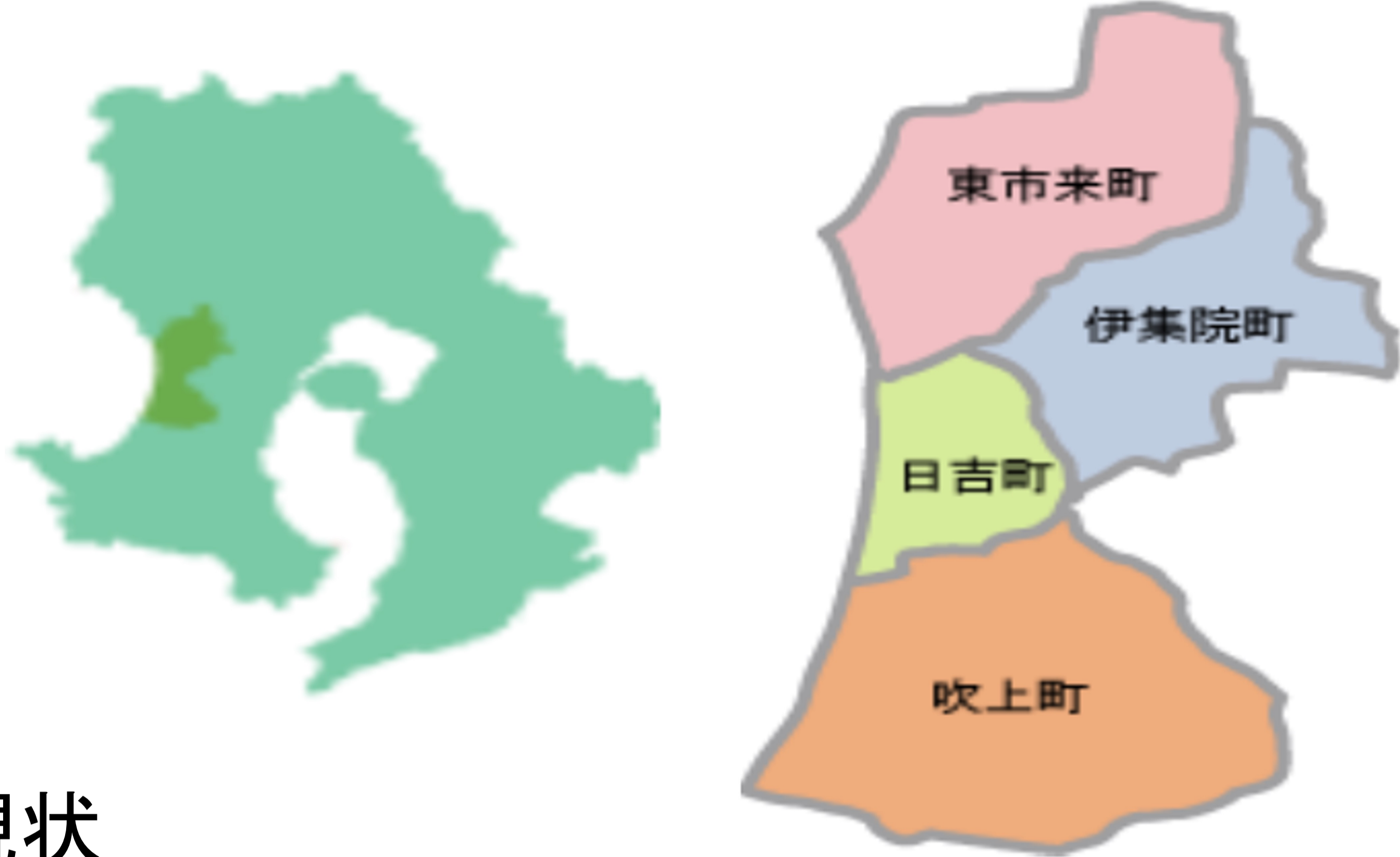
- 1.諸塚村の学生⇄都市圏の学生の交換  
・学生同士の交換留学を行い、交流などを行う。
- 2.諸塚に訪問した学生が各地で諸塚の魅力や体験を広めるアンバサダー  
・各大学でのイベントなどにより諸塚村に関心を持つきっかけづくりを行う
- 3.諸塚に訪問した大学生同士のコミュニティ  
・諸塚村は授業やプログラムで大学生を多く受け入れている。諸塚村を訪問したことのある大学生同士でコミュニティを作ることで定期的な交流を持つことができる。



Goal 諸塚村の関係人口創出

# 鹿児島県日置市でのフィールドスタディ

## 草刈り人材不足の解消と地域との連携による『草刈り』で人を呼び込む仕組みづくり提言



### 現状

- 草刈りができていない土地の増加
- 自治会の高齢化・若者の加入率減
- 対策として市が『草刈りリーグ』開催

### ネット調査でわかったこと

- 草刈り×スポーツの可能性
  - 鴨川・長門市等
  - 景品・運動効果・景観(棚田)・地域の人との交流・音楽などの付加価値
- 中山間応援サポーター制度 @福岡県

### 市職員へのアンケートでわかったこと

- 草刈りの負担が大きい
- 自治会のやり方の変化の必要性
- 草刈りを教わる機会への需要
- 自治会の地域間格差
- イベントと日常草刈りの違い
- 草刈りリーグで蜂に刺された方がいた

### 提案 ”健康・交流・地域のための草刈り”

### 現地調査

- 草刈り体験
  - @伊集院町
    - エンジン式・充電式
      - 熟練の技術のすごさ
      - 感じた草刈りの魅力
        - ・ 運動→健康
        - ・ 黙々と作業→ストレス発散
        - ・ 達成感
        - ・ 人との交流
  - @養蜂場
    - モアを使った機械式
      - 爽快感
- 自治会からの聞き取り
  - 中区自治会@日吉町
    - 祭りや伝統を大切にする会
    - 会報を頻繁に作る会長
    - 防草シート川沿い300m
  - 平古自治会@伊集院町
    - 理念を持ったリーダー
    - 子どもを軸に大人を巻き込む
    - 4台刈払機を所有
- 刈払機販売店での聞き取り
  - ニシムタ@伊集院店
  - ナフコ@伊集院店
  - コメリ@吹上店
    - 都市部と田舎での需要の違い

草刈りの魅力をアピール→自治会等やイベントへの参加を促すきっかけに

地域運営・草刈りの担い手の育成	外との交流	草刈り負担軽減	自走化のためのモチベ作り
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会や水土里サークルによる刈払機講習や機材のレンタル</li> <li>● 町の課題発見ツアー</li> <li>● 若者が参加しやすい形の自治会等の運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「姉妹自治会」制度</li> <li>● 市による地域団体と個人のマッチング</li> <li>● 安全と付加価値に配慮した草刈りイベント</li> <li>● 他地域草刈りイベントとの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防草シートの活用</li> <li>● (特に草刈りの困難な場所で)</li> <li>● 地域外の人々の力も借りる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生ごみ回収処理事業を参考に、刈草の堆肥化→刈草の回収量に従って奨励金</li> </ul>

協力→継続

リモセンやオンライン報告→草刈りが必要な場所の把握

どんな町？

## 両町とも

- ・全国有数の養殖うなぎ産出地。農業・畜産業が基盤
- ・海岸沿いのキャンプ場が人気
- ・鉄道は通っておらず、高速道路でのアクセスが主

## 大崎町

- ・27品目のごみ分別に取り組む
- ・日本一のごみリサイクル率：82.6%（国平均19.6%）
- ・パッションフルーツ生産量日本一

## 東串良町（ひがしくしらちょう）

- ・鹿児島県本土で最小面積：27.78km<sup>2</sup>（参考：品川区22.84km<sup>2</sup>）
- ・海岸の埋立地に石油備蓄基地
- ・春に咲く柏原海岸のルーピンが有名

## 9月(全員)

農業用ロボット開発に取り組む「あぐりすと」の訪問や、醤油づくりを通じて町おこしに取り組む「山中醤油」での醤油づくり体験、地域おこし協力隊の方・移住者の方との対話など、町に関わるさまざまな立場の方との交流を通じて町の見方を広げました。

## 11月(石川,佐藤)

「菓子工房茶いっぺ」でのお菓子作り体験や、初開催となる県下最大級のイベント「KAGOSHIMA outdoor Festival」への参加を通じて、町の方々との交流をさらに深めました。



## 12月(岡本,木戸,水谷)

「牧原養鰻」の養鰻場の見学や、獣害対策現場への同行、サイクリングでの周遊などを通じて、町の姿をより間近に観察しました。



上に登れる大崎町の「横瀬古墳」

東串良町のドームハウス型宿舎「マルマリン」

「田の神さあ」と呼ばれる石像が町を見守ります



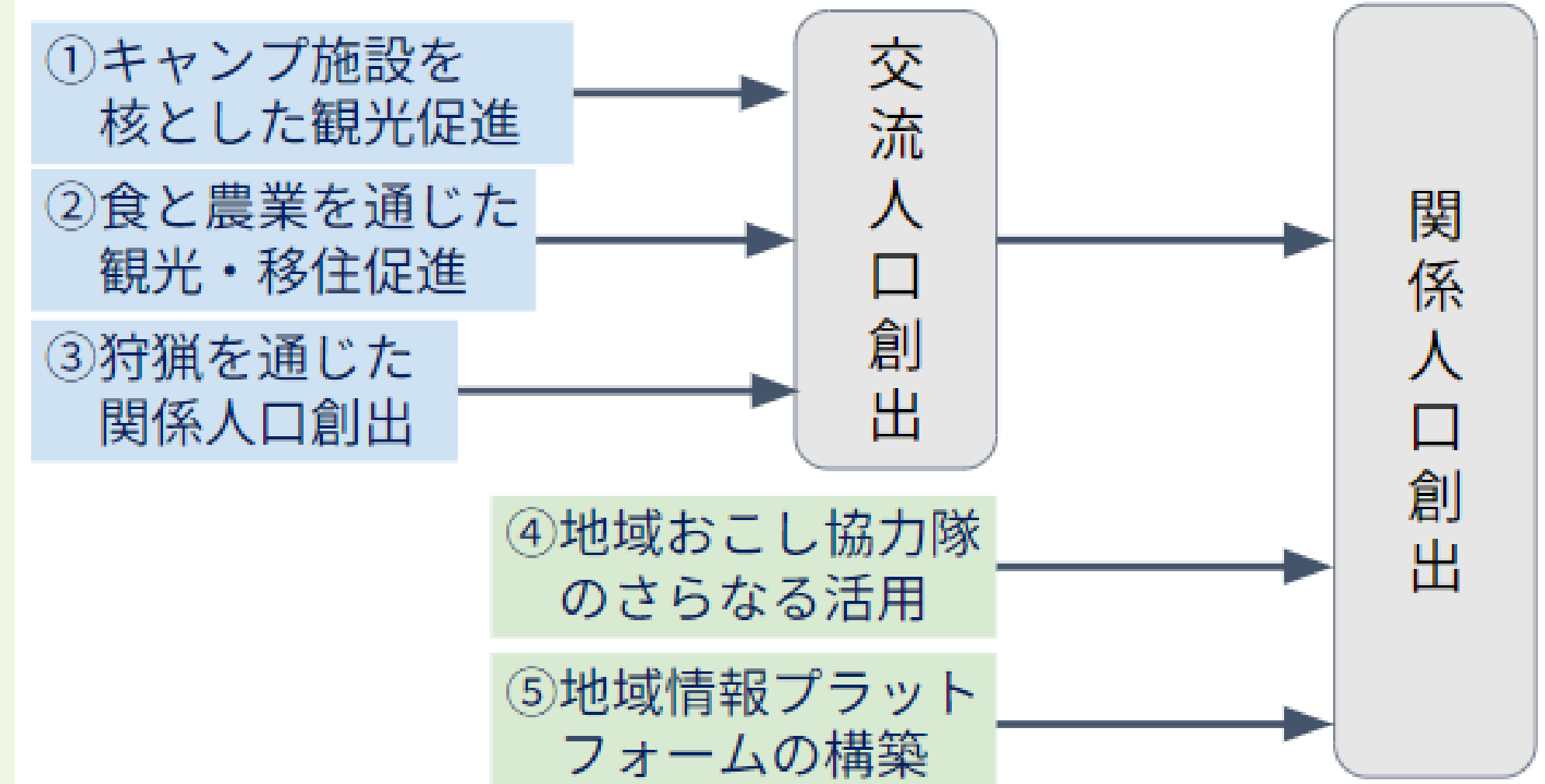
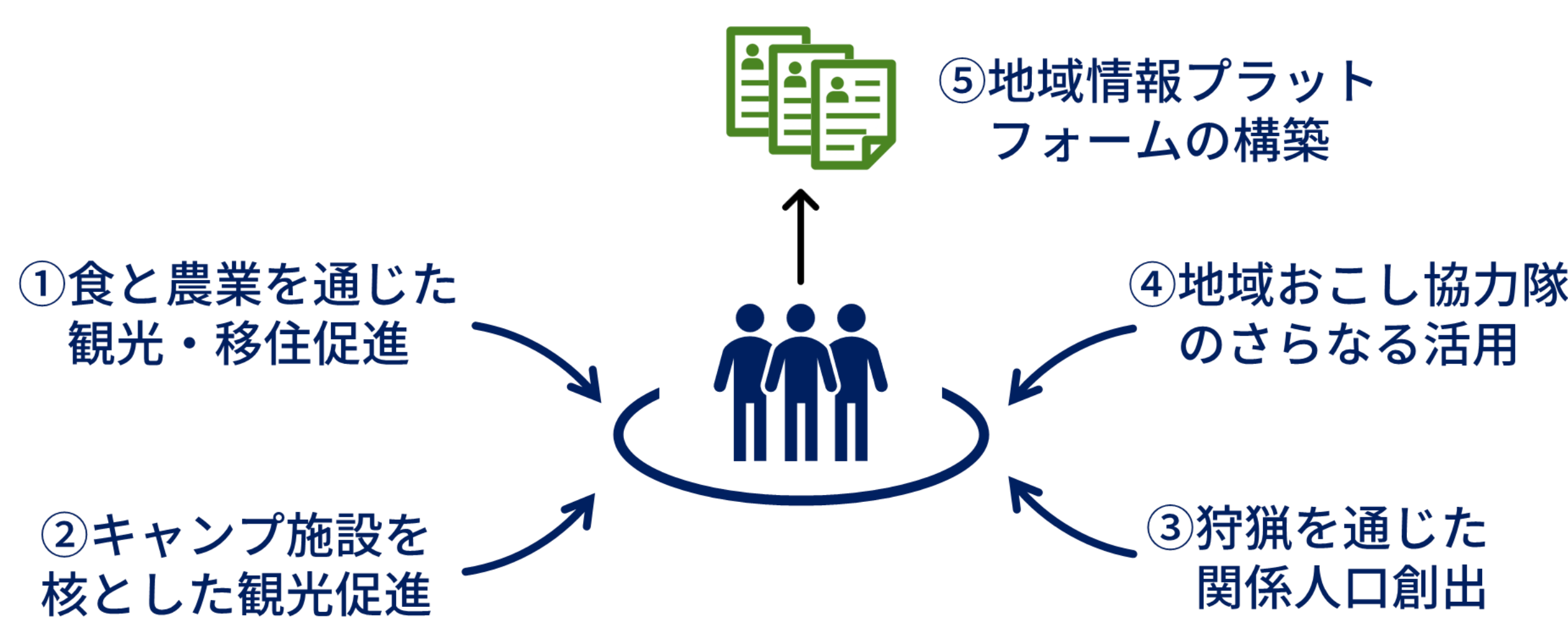
絶品グルメの数々

現地活動の概要

政策提言内容

## 我々に与えられたミッション：

### 「地域と共に社会課題に挑む関係人口創出プログラムの構築」



## 交流人口・関係人口を直接増やす(①②③)

### ①

・創意工夫の意思を持ち、優れた食品を提供する事業者多  
・対外発信(exふるさと納税)の規模・体制に優れる  
↓  
・食品事業者・農家・行政が連携する体制のもと「食」のブランディングおよび販路拡大を行い、観光客の増加を目指す。  
・さらには、食品産業や農業への従事を決め手とする両町への移住・Uターンの促進を、優れた事業環境の整備により実現する。

### ②

・魅力的な宿泊施設があるも、キャンプ利用に終始  
・「東串良町アウトサイドフェスティバル」の際には近隣市街から家族連れをはじめ多くの観光客が訪問(→ポテンシャル有)  
↓  
・キャンプ利用に留まらない、疲れを癒やし心身を”デトックス”する場としてのプロモーション  
・通信圏外→デジタルデトックス&「積ん読解消」  
・近隣市街からのリピーター獲得を目指す

### ③

・高齢化が進む中で新規参入がなければ狩猟にまつわる環境の悪化、狩猟技術の喪失、獣害の深刻化が進む。  
・若年層の狩猟免許取得は増えているがその殆どは都市部  
↓  
都市部のペーパーハンター(初心者、初中級者)と地方の熟練ハンターを繋ぐ。  
・潜在的な狩猟従事者を増やし、技術伝達を行う。  
・当該地域の獣害対策に貢献する。

### ④

・斬新な取り組みをされている方が多い  
・近隣地域(大隅、宮崎県南、薩摩)以外との交流が少ない  
・アクセスの悪さ  
↓  
・すでに町おこしに尽力されている方々のもとで、地域おこし協力隊にも町おこしに取り組んでもらう  
・「手伝い」というよりは「研修から協業」。  
・ミッションの具体化・魅力化により、移住先として選ばれる町に

### ⑤

・「地域」に入るとっかかりがない  
・自分の地域を語る難しさ  
・調べても蓄積されない  
↓  
・独自の調査ノートを作成  
・フィールドノートの回収と引き換えに特典を与える  
・そのノートを集めた図書コーナーを作る  
・対象は、「まちを知りたい人」

多様な人からみた「まち」の語りを非匿名で蓄積する

## 関係人口創出を促す仕組みを作る(④⑤)